

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
国語		現代の国語		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	1	0	1			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名		
教科書	東京書籍	現国・703	現代の国語			
副教材等	－	－	－			
学習目標						
国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の背景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方」を働かせる。そのために「現代の国語」では以下の観点を学習目標とし、文章の論理的読解手法や、表現方法、分析方法などの現代に必要な知識や考え方を指導する。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。						
定期試験範囲						
一学期末試験				学年末試験		
①読解編1 p18～23「水の東西」/Column p24～25「評論の型」/探究編1 p152～155「本を紹介する」/探究編2 p160～165「手順を整理して正確に伝える」 ②読解編2 p33～39「言葉は世界を切り分ける」/Column p166～169「探究学習へのアプローチ」/探究編3 p170～177「発想を広げて課題を見つける」/探究編4 p178～185「新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる」				④読解編4 p76～82「真の自立とは」/Column p92～94「文章を読み比べるために」/探究編7 p205～209「異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く」 ⑤読解編5 p103～111「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」/探究編8 p210～215「情報を整理しながら話し合う」/探究編9 p216～223「論証してレポートを書く」		
【添削指導（報告課題）】						
	学習範囲	単元目標		報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	読解編1 p18～23「水の東西」 Column p24～25「評論の型」 探究編1 p152～155「本を紹介する」 探究編2 p160～165「手順を整理して正確に伝える」	【知識・技能】 ①論理的な文章の読解を通じて、主題を正しく把握する方法を理解している。 ②ブックトーク・ビブリオバトルを通じて相手に伝わる表現手法について理解している。 【思考・判断・表現】 ①評論文の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる。 ②手順書の書き方を通じて表形式やフローチャート形式などの実用的表現を理解し適切に使用することができる。		1	1・2	○
②	読解編2 p33～39「言葉は世界を切り分ける」 Column p166～169「探究学習へのアプローチ」 探究編3 p170～177「発想を広げて課題を見つける」 探究編4 p178～185「新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる」	【知識・技能】 ①探究学習の目標目的を学び、その基本的な方法や考え方などの知識を理解している。 【思考・判断・表現】 ①探究学習を通して、自分で問題提起を行い、その調査・検証・発表の方法を適切に使うことができる。 ②文章の構造を把握して論理的な文章の構造的読解を理解し、その内容を適切に判断できる。		2	3・4	○
③	読解編3 p54～63「時間と自由の関係について」 探究編5 p186～193「メディアを適切に使いつながら、情報を収集する」 探究編6 p194～200「調べた情報を説明資料にまとめる」 Column p201～204「グラフや写真の読み取り方」	【知識・技能】 ①探究学習に関連して、メディアの特性とメディアリテラシーについて正しく理解している。 ②グラフや写真など非言語情報に触れその読解手法を理解し実践することができる。 【思考・判断・表現】 ①キーワードの展開を通読から学び、論の展開方法を理解し、本文の詳細な構造分析をすることができる。		3	5・6	
④	読解編4 p76～82「真の自立とは」 Column p92～94「文章を読み比べるために」 探究編7 p205～209「異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く」	【知識・技能】 ①段落相互の関係など、文脈を構成する言葉を利用して論理的な文章の構造解釈の方法を正しく身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①同一テーマの文章を比較し、主張やデータの使い方の違いを理解し、多角的な視点で本文を理解することができる。 ②様々な意見からそれぞれの立場や考え方の違いを比較考察し、そこから自分の意見につなげる力を身に付けている。		4	7・8	○
⑤	読解編5 p103～111「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 探究編8 p210～215「情報を整理しながら話し合う」 探究編9 p216～223「論証してレポートを書く」	【知識・技能】 ①報告文(レポート)の体裁や作成の流れを学び、実際に探究学習の成果を作成し発表することができる。 【思考・判断・表現】 ①抽象的概念をテーマにした論理的な文章の解法をもとに、自分の観点で理解し整理する力を身に付けている。 ②「話し合い」の方法を学び、実際に自分の意見を交換し話し合いを通じて、考え方を高めることができる。		5	9・10	○
⑥	読解編6 p126～133「暇と退屈の倫理学」 Column p224～228「引用の方法」 探究編10 p229～236「探究したことを発信する」	【知識・技能】 ①引用のルールや効果的な方法を学び、論文や発表用飼料の正しい作成法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①抽象的概念をテーマにした論理的な文章の読解を通じて、概念を論証する方法を適切に使うことができる。 ②「現代の国語」を通じて学んだことの中から1つテーマをとりあげ探究学習の成果として発表することができる。		6	11・12	
学 習 方 法						
【添削指導（報告課題）】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導（スクーリング）】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評 価 方 法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
国語		言語文化		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	1	0	1			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書 名			
教科書	東京書籍	言文・701	新編言語文化			
副教材等	－	－	－			
学習目標						
国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の背景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方」を働かせる。そのために「言語文化」では以下の観点を学習目標とし、日本語の豊かさや奥深さ、そして言語と文化の関連について指導する。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。【知識・技能】 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
①随筆 p10～15「さくらさくらさくら」/小説 p24～35「とんかつ」/p45～48「小説の読み方」 ②古文入門 p122～123「児のそら寝」/p124～125「古文の言葉と仮名遣い」/p128～129「古語を調べるために」 p134～136「用言の活用」/詩歌 p154～163「折々の歌」/p164～166「和歌」			④詩歌 p62～65「I was born」/小説 p72～87「羅生門」/p88～92言語活動「元になった古典作品と読み比べよう」 ⑥論語 p238～241「論語－八章」/p242～245「『論語』の注釈を読む」/史話 p248～249「曹公戦於白馬」(三国志)			
【添削指導（報告課題）】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	現代文編 随筆 p10～15「さくらさくらさくら」 小説 p24～35「とんかつ」/p45～48「小説の読み方」	【知識・技能】 ①随筆の文章的特性を理解し、その読解手法を正しく使うことができる。 【思考・判断・表現】 ①現代の随筆および小説作品を通読し、筆者の情緒的な感性を味わうことができる。 ②小説の基本的な知識を把握し、小説の鑑賞方法や鑑賞のポイントを理解することができる。		1	1・2	○
②	古文編 古文入門 p122～123「児のそら寝」/p124～125「古文の言葉と仮名遣い」/p128～129「古語を調べるために」 p134～136「用言の活用」 詩歌 p154～163「折々の歌」/p164～166「和歌」	【知識・技能】 ①古文を通読するために必要な、基本的な決まり事に関する知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①古文の通読・音読を通して、古代日本の文化や精神性といった古典そのものの魅力に触れることができる。 ②近代以降の詩歌に触れ、韻文特有の表現から日本の精神文化について考えるきっかけにできる。		2	3・4	○
③	漢文編 漢文入門 p210～218「訓読の基本」 漢詩 p229「春曉」(孟浩然)・「春曉」(幸田露伴)/p233「春望」(杜甫)/p234「漢詩と日本文学」	【知識・技能】 ①漢文を通訳するのに必要な訓読のルールと基本的な句法の知識を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ①中国の古典である漢文が日本の文化や日本人の精神性に与えた影響を知るきっかけにできる。 ②中国近代詩(唐詩)のルールを学び、代表的な唐詩の解釈から当時の中国文化や精神性を理解している。		3	5・6	
④	現代文編 詩歌 p62～65「I was born」 小説 p72～87「羅生門」/p88～92言語活動「元になった古典作品と読み比べよう」	【知識・技能】 ①和歌や俳句、詩など日本の韻文特有の決まりごとを正しく理解している。 【思考・判断・表現】 ①現代詩の理解を通じ、現代日本の文化や日本人の精神性を見つめ直すことができる。 ②明治以降の小説を読むことで、近代日本の精神性と現代の違いについて考察できる。 ③近代と古典の比較から古典的な日本の精神文化と明治時代以降の日本人の変化を考察できる。		4	7・8	○
⑤	古文編 古文入門 p126～127「用光と白波」(今鏡) 随筆 p146～148「うつくしきもの」(枕草子) 物語 p170～171「芥川」(伊勢物語)/p203～208「文体の変遷」	【知識・技能】 ①中文学の代表的な短編3作品を読み、基本文法や古典解釈の方法を正しく身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①ジャンルの違う3作品の相互比較から共通点や相異点などを発見し中文学の特徴を理解できる。 ②様々な文体の知識を学び、豊かな日本語の表現技法を正しく理解し、解釈することができる。		5	9・10	○
⑥	漢文編 論語 p238～241「論語－八章」/p242～245「『論語』の注釈を読む」 史話 p248～249「曹公戦於白馬」(三国志)	【知識・技能】 ①中国古典特有の「注釈書」に触れ中国文化の学問的姿勢を正しく把握しその精神性を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①古代日本から現代にいたるまで強い影響を与える「論語」から人間の普遍性を理解することができる。 ②日本でも人気のある「三国志」に触れ、中国と日本の文化に共通する価値観について考察することができる。		6	11・12	
学 習 方 法						
【添削指導（報告課題）】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導（スクーリング）】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評 価 方 法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2025年度 】 年間指導計画①

教科等			科目		準必修	報告課題回数	定期試験回数
国語			論理国語		4	12	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
4	2	0	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			発行者の番号・略称または出版社名		教科書の記号・番号		
教科書			東京書籍		論国702		
副教材等			—		—		
書名							
精選論理国語							
学習目標							
国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の背景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を読み、「言葉による見方・考え方」を働かせる。そのために「論理国語」では、「現代の国語」「言語文化」の学習を踏まえ、創造的・論理的思考の力を育成すると同時に、実社会に必要となる、論理的に書く・批判的に読む能力を育成することを目標とする。また、論理的に考え、表現するために必要な言葉や情報の扱い方などについても十分に育する。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知識・技能】 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合ふ力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
論理の力を鍛えよう(p21～22) 論理の力・論理とは何か・つなげる力(p134～141) 2論証する力・2言葉と認識「相手依存の自己規定」(p24～33) 3要約する力(p142～149) 4質問する力(p150～154) 1部「ミロのヴィーナス」(p14～20) 7地図の想像力(p110～130)				11部「言語と記号」(p156～171) 「象の中の現代社会」(p174～191) 「抗争する人間」(p272～281) 言葉のトレーニング・やさしい日本語(p354～362) 探究学習へのアプローチ(p314～328) 探究編「1資料を整理し、テーマを吟味する」(p284～291)			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	論理の力を鍛えよう(p21～22) 論理の力 論理とは何か つなげる力(p134～141) 1部「1発見の誘い」 1部「ミロのヴィーナス」(p14～20)	【知識・技能】 ①「現代の国語」の振り返りをふまえて基本的な論理思考の方法を再確認できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①「論証」について正しく理解し、それに基づいた思考を再現できる。 ②説明的文章を論理的に読み、理解し、それに対する自分の考えを持つことができる。			1	1・2	○
②	論理の力 2論証する力 3要約する力(p142～149) 1部「イメージを読む」 7地図の想像力(p110～130)	【知識・技能】 ①基本的な論理思考の方法を再確認できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①論証する方法と要約する方法を正しく理解し、実践できる。 ②実際に説明的文章を読み、その内容を適切に論証し正しく要約できる。			2	3・4	○
③	論理の力 4質問する力(p150～154) 2言葉と認識「相手依存の自己規定」(p24～33)	【知識・技能】 ①基本的な論理思考の方法を再確認できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①「質問」すること(論点を踏まえて疑問を出す)に関して正しく理解し、実践できる。 ②実際に説明的文章を読み、その内容をもとに適切な「質問」をもとに論議をつくることができる。			3	5・6	○
④	Column 文章を読み比べるために(p61～62) 1部「3人間を見つける」 7メディアの要素(p52～60)	【知識・技能】 ①基本的な論理思考の方法を再確認できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①「質問」すること(論点を踏まえて疑問を出す)に関して正しく理解し、実践できる。 ②実際に説明的文章を読み、他の文章と比較して多角的な視点を持つことができる。			4	7・8	
⑤	1部「4学期のまごころ」 「1発見」とは何か(p173～82) 探究編「4資料を活用して論述する」(p306～313)	【知識・技能】 ①探究学習の方法について正しく理解し、適切な方法を選択できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①論議に対する適切な資料を用意し、それをもとに論述することができる。 ②実際に説明的文章を読み、そこから論議を設定し、論述することができる。			5	9・10	
⑥	1部「5社会を捉え直す」 「7あるよとどうする」(p84～p97) 思考の原「1実在論vs.虚名論」(p108)	【知識・技能】 ①実在論・虚名論といった哲学的な立場を正しく理解できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①様々な哲学的立場を自ら調べ、それを参考に自分の考えをまとめることができる。 ②実際に説明的文章を読み、そこから考え方や思想的な立場を捉え自分の参考にできる。			6	11・12	
⑦	1部「1言葉の再考する」(言語と記号)(p156～171) 言葉のトレーニング・やさしい日本語(p354～362)	【知識・技能】 ①「言葉」と「記号」の意味を正しく理解できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①「い」の語彙や言語に関する論を調べ、それを自分の考えに応用することができる。 ②実際に説明的文章を読み、そこから言語(日本語)の特性を自分なりにまとめることができる。			7	13・14	○
⑧	1部「6自己と社会」 「抗争する人間」(p272～281) 探究学習へのアプローチ(p314～328)	【知識・技能】 ①前回の授業をふまえ、探究学習の方法について正しく理解し、適切な方法を選択できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①論議に対する適切な資料を用意し、それをもとに論述することができる。 ②実際に説明的文章を読み、そこから論議を設定し、論述することができる。			8	15・16	○
⑨	1部「2近代という時代」 「象の中の現代社会」(p174～191) 言葉のトレーニング・やさしい日本語(p284～291)	【知識・技能】 ①探究学習の方法に基づき、適切に探究学習を実践できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①探究学習に対して適切なテーマを設定し、探究の準備をすることができる。 ②実際に説明的文章を読み、必要な情報を抽出し参照することができる。			9	17・18	○
⑩	1部「4他者のいる思考」 「ロケットは夢を持つか」(p210～230) 探究編「2仮説を立てて検証する」(p292～299)	【知識・技能】 ①探究学習の方法に基づき、適切に探究学習を実践できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①探究学習に対して適切に仮説を立てて論理的に論証することができる。 ②実際に説明的文章を読み、その論証の過程を分析し、参考にできる。			10	19・20	
⑪	1部「3メディアを問いつめる」 「おじいさんのランプ」(p194～208) 探究編「3社会的な話題」に関する文章を読み、短い論文を書く(p300～305)	【知識・技能】 ①探究学習の方法に基づき、適切に探究学習を実践できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①「社会的な話題」に対して適切に論述する過程を理解し、実践することができる。 ②実際に説明的文章を読み、その構造を正しく理解し、自分の論述に応用できる。			11	21・22	
⑫	1部「5困難な時代に」 「社会の壊れるとき-知的であるとはどういふことか」(p232～240) 言葉のトレーニング・やさしい日本語(p336～343)	【知識・技能】 ①探究学習の方法に基づき、適切に探究学習を実践できる。 ②正しい表現および語彙を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①前回の学習をふまえ「社会的な話題」に対して適切に論述できる。 ②実際に説明的文章を読み、その構造を正しく理解し、自分の論述に応用できる。			12	23・24	
学 習 方 法							
【							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教科等			科目		準則	報告課題回数	定期試験回数
国語			文学国語		4	12	2
面接指導							
規定回数(1)		メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
		Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2				
※規定教科書は、発行者の番号・題名、教科書の記号・番号を記載					書名		
教科書	東京書籍	文国701	文学国語				
副教材等	—	—	—				
学習目標							
国語学習を通して、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できるとともに、その言葉の背景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方」を働かせる。そのために「文学国語」では、「言語文化」「現代の国語」の学習を踏まえ、「思考力・判断力・表現力」の感性・情緒の側面を育成することで、共感や想像の力を育む。また、文学作品を通して表現力を深め、作品の周辺から考えられる多様な視野を獲得することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。【知識・技能】 (2)深く共通した語彙に接触したりする力を伸ばすとともに、論理的に考える力を養い、他者との関わりの中での中立的な力を含む。自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わりようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
【第1】随筆「光の宴」(p8-14)・「南月物語」(p15-18) 【第2】2小説「山月記」(p20-33)・「文学への道1 実生」ということ(p42)・「恋」(p34-39) 【第3】4小説「沖城の手記」(p71-91) 【第4】1小説「夏」(p376-386・4行上段) 【第5】1小説「父と息子」(p386-4行上段)				【第1】随筆「国語から独立して」(p190-198)・「書かれた風景の中へ」(p199-205) 【第2】2小説「コンビニの男」(p217-222)・「文学への道4 記号と言語の一端」(p224) 【第3】3詩歌「夏の歌」(p226-227)・「帰郷」(p228-229)・「小唄なる古謡のほとり」(p230-231)・「年賀」(p236-244)・「参考正解手帳」(p245) 【第4】4随筆「父と息子」(p248-254)・「クレール」という女(p255-265) 【第5】4随筆「父と息子」(p266-280)			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	【第1】随筆「光の宴」(p8-14)・「南月物語」(p15-18) 【第2】2小説「山月記」(p20-33)・「文学への道1 実生」ということ(p42)・「恋」(p34-39) 【第3】4小説「沖城の手記」(p71-91) 【第4】1小説「夏」(p376-386・4行上段)	『文章のメッセージ・近代文学を俯瞰するⅠ』 【知識・技能】 ① 主要な代表作と作家、主な文芸思想などの近代文学史の基本事項を理解できる。 ② 近代文学の発展の要因などの概観を正しく把握できる。 【思考・判断・表現】 ① 随筆の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる。 ② 表現や背景から筆者の考えを理解、あるいは共感することができる。			1	1・2	○
②	【第1】2小説「山月記」(p20-33)・「文学への道1 実生」ということ(p42) 【第2】4小説「沖城の手記」(p71-91) 【第3】1小説「夏」(p376-386・4行上段)	『近代小説を読むⅠ・近代文学を俯瞰するⅡ』 【知識・技能】 ① ポストモダンなど近代から現代への文学思潮上の変遷を理解できる。 ② 随筆の文章の読み解きを理解できる。 【思考・判断・表現】 ① 小説の基本的な形と文脈を理解し、筆者のメッセージを正しく判断できる。 ② 随筆の基本的な形と文脈を理解し、筆者のメッセージを正しく判断できる。			2	3	○
③	【第1】2小説「山月記」(p20-33)・「文学への道1 実生」ということ(p42) 【第2】4小説「沖城の手記」(p71-91) 【第3】1小説「夏」(p376-386・4行上段)	『近代小説を読むⅡ』 【知識・技能】 ① 随筆の基本的な形と文脈を理解し、筆者のメッセージを正しく判断できる。 ② 随筆の基本的な形と文脈を理解し、筆者のメッセージを正しく判断できる。			3	5	○
④	【第1】3詩歌「夏の歌」(p226-227)・「帰郷」(p228-229)・「小唄なる古謡のほとり」(p230-231)・「年賀」(p236-244)・「参考正解手帳」(p245) 【第2】4随筆「父と息子」(p248-254)・「クレール」という女(p255-265) 【第3】4随筆「父と息子」(p266-280)	『様々な価値観に触れる・創作へのアプローチ』 【知識・技能】 ① 文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。 【思考・判断・表現】 ① 随筆の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。			4	7・8	
⑤	【第1】5詩歌「夏の歌」(p226-227)・「帰郷」(p228-229)・「小唄なる古謡のほとり」(p230-231)・「年賀」(p236-244)・「参考正解手帳」(p245) 【第2】4随筆「父と息子」(p248-254)・「クレール」という女(p255-265) 【第3】4随筆「父と息子」(p266-280)	『詩に親しみ・短歌と評論』 【知識・技能】 ① 詩の形式や種類、用語などの基本事項を理解できる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。 【思考・判断・表現】 ① 詩・短歌の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。			5	9・10	
⑥	【第1】6小説「こころ」(p116-147)・「文学への道1 実生」ということ(p42)・「恋」(p34-39) 【第2】4随筆「父と息子」(p248-254)・「クレール」という女(p255-265) 【第3】4随筆「父と息子」(p266-280)	『名作に触れるⅠ』 【知識・技能】 ① 近代文学の大家、夏目漱石に関する文学史上の基本事項を理解できる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。 【思考・判断・表現】 ① 随筆の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。			6	11・12	
⑦	【第1】随筆「国語から独立して」(p190-198)・「書かれた風景の中へ」(p199-205) 【第2】2小説「コンビニの男」(p217-222)・「文学への道4 記号と言語の一端」(p224)	『様々な見方・考え方に触れるⅠ・近代小説を読むⅢ』 【知識・技能】 ① 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。			7	13・14	○
⑧	【第1】3詩歌「夏の歌」(p226-227)・「帰郷」(p228-229)・「小唄なる古謡のほとり」(p230-231)・「年賀」(p236-244)・「参考正解手帳」(p245) 【第2】4随筆「父と息子」(p248-254)・「クレール」という女(p255-265) 【第3】4随筆「父と息子」(p266-280)	『詩に親しみ・短歌と評論』 【知識・技能】 ① 詩の形式や種類、用語などの基本事項を理解できる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。 【思考・判断・表現】 ① 詩・短歌の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。			8	15・16	○
⑨	【第1】4随筆「父と息子」(p248-254)・「クレール」という女(p255-265) 【第2】4随筆「父と息子」(p266-280)	『様々な見方・考え方に触れるⅡ・多様な形式の作品に触れるⅠ』 【知識・技能】 ① 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。			9	17・18	○
⑩	【第1】6小説「こころ」(p116-147)・「文学への道1 実生」ということ(p42)・「恋」(p34-39) 【第2】4随筆「父と息子」(p248-254)・「クレール」という女(p255-265) 【第3】4随筆「父と息子」(p266-280)	『名作に触れるⅡ』 【知識・技能】 ① 近代文学の大家、森田久雄に関する文学史上の基本事項を理解できる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。 【思考・判断・表現】 ① 随筆の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。			10	19・20	
⑪	【第1】7詩歌「夏の歌」(p226-227)・「帰郷」(p228-229)・「小唄なる古謡のほとり」(p230-231)・「年賀」(p236-244)・「参考正解手帳」(p245) 【第2】4随筆「父と息子」(p248-254)・「クレール」という女(p255-265) 【第3】4随筆「父と息子」(p266-280)	『多角的に文学を読むⅡ』 【知識・技能】 ① 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。 【思考・判断・表現】 ① 随筆の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。			11	21・22	
⑫	【第1】8小説「こころ」(p116-147)・「文学への道1 実生」ということ(p42)・「恋」(p34-39) 【第2】4随筆「父と息子」(p248-254)・「クレール」という女(p255-265) 【第3】4随筆「父と息子」(p266-280)	『近代小説を読むⅢ』 【知識・技能】 ① 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。 ② 随筆の文章の表現や特徴などの知識を正しく理解できる。			12	23・24	
学習方法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各科目の添削指導は、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
国語			国語表現		4	12	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
4	2	0	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			発行者の番号・略称または出版社名		教科書の記号・番号		
教科書			東京書籍		国表702		
副教材等			-		-		
学習目標							
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的に理解し効果的に表現できるようになる。そのために「国語表現」では以下の観点进行学习目標とし、文章の論理的読解手法や、表現方法、分析方法などといった資質・能力を身に付けることを目標とし指導する。 ①(実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知識・技能】) ②(論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】) ③(言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】) 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
第1章 分かりやすく説明しよう 情報の整理・伝達(p16～p33) ○接続の言葉 OSNSでのトラブル回避のために 第2章 身体で表現しよう(p34～p45) ○インプットの魅力―先の見えにくい時代を生き抜くヒント― 第3章 「問い」を考えよう インタビュー(p46～p59) ○電話のかけ方・メールの書き方○手紙の書き方				第5章 論理的な文章を書こう 小論文(p94～97、p102～p109) ○文章修正ワーク C テータ分析型小論文 D 自己PR型小論文 ○パラグラフ・ライティング ―論理的な文章を書く方法を学ぼう― 第6章 話し合う力をつけよう ファシリテーション(p112～p123) 表現と読書活動(p128～p137) ○広告・PRの表現 一限られた条件のもとで、最大限のパフォーマンスを追求する―			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲		単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1章 分かりやすく説明しよう 情報の整理・伝達(p16～p33) ○接続の言葉 OSNSでのトラブル回避のために		【知識・技能】 ①相手・内容・目的・状況を明確にし、表現することができる。②接続語や情報を伝える順序を考え、適切に判断し表現することができる。 【思考・判断・表現】 ①情報の取捨選択・重みづけを行い、見やすさに配慮して情報を整えることができる。		1	1・2	○
②	第2章 身体で表現しよう(p34～p45) ○インプットの魅力―先の見えにくい時代を生き抜くヒント―		【知識・技能】 ①情報伝達には言葉以外にも多くの表現方法があることを理解している。②発声や口調、身振り、表情など、それぞれの表現方法の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ①発声や口調、身振り、表情など、それぞれの表現方法の特徴を踏まえて判断し、その場に適した表現を選択し実行することができる。		2	3・4	○
③	第3章 「問い」を考えよう インタビュー(p46～p59) ○電話のかけ方・メールの書き方 ○手紙の書き方		【知識・技能】 ①目的とテーマを明確にすることができる。②問いを重ねて、隠れた情報や価値観を引き出すことができる。 【思考・判断・表現】 ①目的やテーマに合わせて、さまざまな角度から質問をすることができる。②質問を経て得た情報を適切に仕分け、内容をまとめることができる。		3	5・6	○
④	第3章 「問い」を考えよう(p60～p65) ○「問い」の活用 ○よい質問とは		【知識・技能】 ①「問い」の種類やよい質問がどういったものなのかを理解している。 【思考・判断・表現】 ①「問い」を用いて思考や表現を深めることができる。②「問い」を用いて振り返り(リフレクション)を適切に行うことができる。		4	7・8	
⑤	第4章 「自分」を表現しよう 面接・自己PR(p66～p79)		【知識・技能】 ①自分自身や相手をよく知るための手法を身に付けている。②面接・自己PRの特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ①自己PRをする相手や手法に合わせて、「自分」を表現することができる。		5	9・10	
⑥	第5章 論理的な文章を書こう 小論文(p82～p93、p98～p101) A テーマ型小論文 B 課題型小論文		【知識・技能】 ①「根拠」「意見」の特徴を理解している。②さまざまな小論文の型を理解している。 【思考・判断・表現】 ①与えられたテーマや資料をもとに自分の思い・考えを「主張」として組み立て、「根拠」を明確にしながら、「論理的な構成」の文章にまとめることができる。		6	11・12	
⑦	第5章 論理的な文章を書こう 小論文(p94～97、p102～p109) ○文章修正ワーク C テータ分析型小論文 D 自己PR型小論文 ○パラグラフ・ライティング ―論理的な文章を書く方法を学ぼう―		【知識・技能】 ①「根拠」「意見」の特徴を理解している。②さまざまな小論文の型を理解している。 【思考・判断・表現】 ①与えられたテーマや資料をもとに自分の思い・考えを「主張」として組み立て、「根拠」を明確にしながら、「論理的な構成」の文章にまとめることができる。		7	13・14	○
⑧	第6章 話し合う力をつけよう ファシリテーション(p112～p123)		【知識・技能】 ①丁寧に、公平に、意見・考えを引き出すことができる。②ファシリテーターの役目を理解している。 【思考・判断・表現】 ①互いの理解と内容を深め合いながら、話し合いを円滑に進めることができる。		8	15・16	○
⑨	表現と読書活動(p128～p137) ○広告・PRの表現 一限られた条件のもとで、最大限のパフォーマンスを追求する―		【知識・技能】 ①読書活動がもたらす効果を理解している。②広告やPR表現の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ①限られた条件のもとで、最大限のパフォーマンスを追求し、表現することができる。		9	17・18	○
⑩	第7章 情報活用力を身に付けよう 広報資料(p140～p153) ○報告書の書き方 ○読者の配慮		【知識・技能】 ①適切な情報かどうかを判断する知識・技能を身に付けている。②情報発信における目的を明確にすることができる。 【思考・判断・表現】 ①読者を想定し、読者にとって有用な内容や、理解しやすい表現を行うことができる。②目的達成のために効果的な内容を取り上げることができる。		10	19・20	
⑪	第8章 説得力のある提案をしよう プレゼンテーション(p154～p167) ○提案書の書き方 ○プレゼンテーションの仕方		【知識・技能】 ①何があれば、どうすれば、説得力につながるのかを理解している。②わかりやすさや印象強さを生む方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ①相手や目的、場所に応じて機器や身体表現を効果的に用い(1)分かりやすく、印象的に伝えることができる。②要点を押さえ、簡潔で読みやすい提案書を書くことができる。		11	21・22	
⑫	第9章 表現を楽しもう 創作(p168～p183) ○レトリック		【知識・技能】 ①見たことや感じたこと、考えたことを、言葉を用い、表現技法も取り入れながら、書きだすことができる。②さまざまなジャンルの作品の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ①自分ならではの世界観を創り出し、形にすることができる。②発想の方法を参考に、表現の幅を広げ創作することができる。		12	23・24	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】							
1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】							
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】							
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教科等			科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
国語			古典探究		4	12	2	
面直接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
4	2	0	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載					書名			
教科書	東京書籍	古探701	新編古典探究					
副教材等	—	—	—					
学習目標								
国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の背景や世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方」を働かせる。そのために「古典探究」では、「言語文化」の学習を深め、様々な古典作品の鑑賞、読解を通じて伝統的な日本文化に関する理解を促進し、人間の普遍性について理解する。また古典作品を正しく読解するために必要な知識を学び、正しく古典を理解できるようにすることを目標とする。 (1) 生きている社会生活に必要な言語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。【知識・技能】 (2) 論理的に考えることや共通した思いを豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】 (3) 言葉も一つの物語の認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させて、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
古文編Ⅰ部・『世田庵用紙』(p76～78)らが春(p79～82)「竹取物語」よまたけのかぐや姫(p32)・「土佐日記」馬のはむく(p54～55) 古文編Ⅱ部・『枕草子』高のいと高う降りたるを(p90)・『伊勢物語』栴檀(p. 94～95) 【附録】古文・日本古典文学史年表(p304) →当地キャラクターと古典(p83～84)・の羽衣(p33～35)				古文編Ⅰ部・『宇治拾遺物語』小野篁、広平のここと(p10)・『徒然草』九月二十日のころ(p22)・『方丈記』かへ河の流れ(p29～30)・『平家物語』堀河の合戦(p66～72)・『小倉百人一首の世界』(p40～47)・『小倉百人一首より』(p48～50) 古文編Ⅱ部・『無名抄』出で喚えすべき歌のこと(p120～121)・『古今和歌集』歌名(p123～124) 言語活動「徒然草」と「玉虫物語」を読み比べる(p26～28) 和歌を読み比べる―討論会形式の「歌合」(p51～52)				
【添削指導(報告課題)】								
学習範囲			単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	古文編Ⅰ部・『近世文学の世界』 『世田庵用紙』(p76～78) 「おあがき」(p79～82) →当地キャラクターと古典(p83～84)		【知識・技能】 ①近世文学史の基本事項を理解できる。 ②近世文学読解に必要な語彙・文法などを正しく理解し読解できる。 【思考・判断・表現】 ①近世文学作品の2作品を解釈し、江戸時代の文化や人々の考え方を理解できる。 ②→当地キャラクターと古典を読み比べ、古くからの事例などを考えられる。			1	1・2	○
②	古文編Ⅰ部・3作品物語を読む 「竹取物語」よまたけのかぐや姫(p32) 天の羽衣(p33～35) ※本文の1部・羽衣伝説 【附録】古文・日本古典文学史年表(p304)		【知識・技能】 ①中古今文学史の基本事項を理解できる。 ②中古今文学読解に必要な語彙・文法などを正しく理解し読解できる。 【思考・判断・表現】 ①日本最古の物語を通して、奈良・平安時代の文化や人々の考え方を理解できる。 ②羽衣伝説、異縁道説話、地名起源説話など物語の類型例を自分できちんと分類できる。			2	3・4	○
	古文編Ⅰ部・5日記を読む 「土佐日記」のほむけ(p54～55) 古文編Ⅱ部・『陸奥を味わう』 「枕草子」高のいと高う降りたるを(p90) 古文編Ⅲ部・2歌物語を読み比べる 『伊勢物語』栴檀(p. 94～95) 【附録】古文・日本古典文学史年表(p304)		【知識・技能】 ①日記・歌物語の基本事項を理解できる。 ②歌物語の基礎事項を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①日記や随筆に見られる筆者の考え方の普遍性や、時代特性について自分なりに意見を持てる。 ②歌物語の読解を通して当時の文化背景や価値観について理解できる。			3	5・6	○
④	古文編Ⅱ部・5作品物語を読む 『源氏物語』光源氏の誕生(p126～128) 『源氏物語』現代語訳の世界(p137～138) 【附録】古文・物語(p294～297)		【知識・技能】 ①『源氏物語』に関する文学知識および作品背景を理解できる。 ②中古今の歌謡表現を正しく理解し、現代語訳できる。 【思考・判断・表現】 ①『源氏物語』を通して平安時代の貴族文化や当時の価値観について自分なりに意見を持てる。 ②『源氏物語』の現代語訳から、遠読みを超えたり良い現代語訳のための手帳がけを学べる。			4	7・8	
⑤	漢文編Ⅰ部・1故事と小説 紀伝(p158～159) 異傳(p162～163) 漢文の読みと古典語訳(p164) 【附録】漢文・中国文学史年表(p314～315)		【知識・技能】 ①古代中国の歴史区分、時代背景、文化などの基本事項を理解できる。 ②漢文読解に必要な語彙・文法などを正しく理解し読解できる。 【思考・判断・表現】 ①漢文(故事成句)の2作品を解釈し、古代中国の文化や人々の考え方を理解できる。 ②漢文と古典語訳という2つの国にまたがる事例から、相互文化の影響について意見を持てる。			5	9・10	
⑥	漢文編Ⅱ部・2書評と文 静思(p168) 芭蕉(p172) 八月十五日夜、原中独坐、対月憶元(p173) 南風(p175)		【知識・技能】 ①中国文化が醸成を極める唐代の基本事項を理解できる。 ②唐詩読解に必要な作詩のルール、詩の構造や対句などの解釈方法を正しく理解し読解できる。 【思考・判断・表現】 ①唐詩を解釈し、唐代の文化や詩情などを理解し、感想を持てる。 ②漢文を正しく解釈し、当時の人々の考え方や現代の人々の異同について意見を持てる。			6	11・12	
⑦	古文編Ⅰ部・1説話を読み比べる 『宇治拾遺物語』小野篁、広平のここと(p10) 古文編Ⅱ部・2随筆を読む 『徒然草』九月二十日のころ(p22) 言語活動「徒然草」と「玉虫物語」を読み比べる(p26～28) 『方丈記』かへ河の流れ(p29～30)		【知識・技能】 ①説話の基本事項を理解できる。 ②前期の学習を踏まえ、鎌倉時代の随筆の基本事項を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①説話を通して、当時の読者の興味関心を読み解き、価値観について考えられる。 ②随筆を通して鎌倉時代特有の価値観や、江戸時代との異同について自分なりに意見を持てる。			7	13・14	○
⑧	古文編Ⅰ部・6童話物語を読む 『平家物語』堀河の合戦(p66～72)		【知識・技能】 ①童話物語の基本事項を理解できる。 ②この時代の文化や価値観、特に「無常観」について正しく理解できる。 【思考・判断・表現】 ①様々な作品に鑑賞される有名な作品の原点に触れ、本来の作品の姿を理解できる。 ②武士の自覚する時代の武士たちの価値観を読み解き、自分なりの意見を持つことができる。			8	15・16	○
⑨	古文編Ⅰ部・4和歌の世界 『小倉百人一首の世界』(p40～47) 『小倉百人一首より』(p48～50) 和歌を読み比べる―討論会形式の「歌合」(p51～52) 古文編Ⅱ部・4和歌・歌謡を読む 『無名抄』出で喚えすべき歌のこと(p120～121) 『古今和歌集』歌名(p123～124)		【知識・技能】 ①和歌およびその派生表現の基本事項を理解できる。 ②文化としての和歌や百人一首、歌合せなどについて正しく把握できる。 【思考・判断・表現】 ①和歌および和歌を利用した表現に触れることで、日本特有の言語表現の機能を理解できる。 ②当時の人々の和歌に対する考え方を学び、文化としての和歌に自分自身の意見を持てる。			9	17・18	○
⑩	古文編Ⅱ部・6俳諧を読み比べる 近世俳諧の各歌人1～2首(p140～144) 『茶寮抄』(p145～146) 『三冊子』(p. 147～148)		【知識・技能】 ①前期の学習を踏まえ、和歌の発展形態としての俳諧の成立について理解できる。 ②俳諧の基本ルールや関連する文学知識を正しく理解できる。 【思考・判断・表現】 ①俳諧の成立に際して、日本特有の言語表現の機能を読み解ける。 ②当時の人々の俳諧に対する考え方を学び、文化としての俳諧に自分自身の意見を持てる。			10	19・20	
⑪	漢文編Ⅱ部・4中国の思想 性理近世【論語】・不惑之心【孟子】・小国寡民【老子】(p251～256) 漢文編Ⅲ部・4中国の思想 出處【荀子】・使君之書【韓非子】(p198～201)		【知識・技能】 ①前期の学習を踏まえ、漢学や諸子百家の思想の整理ができる。 ②各思想家の思想の基本的な知識を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①中国古典の思想について、それぞれの違いや要点を整理し理解できる。 ②現代日本の考え方にどのような影響を与えているか、自分なりに意見を持つことができる。			11	21・22	
⑫	漢文編Ⅰ部・3史記を読む 性理近世【論語】・不惑之心【孟子】・小国寡民【老子】(p251～256) 漢文編Ⅲ部・4中国の思想 出處【荀子】・使君之書【韓非子】(p198～201)		【知識・技能】 ①中国古典史の歴史書「史記」について、作者やその周辺状況まで含めて把握できる。 ②紀伝体の歴史書の基本的な知識を理解できる。 【思考・判断・表現】 ①中国古典史の有名なエピソードを原典を読み、その関連作品などに積極的に触れることができる。 ②古代中国の歴史や文化を読み取り、自分なりに意見を持つことができる。			12	23・24	
学習方法								
【添削指導(報告課題)】 1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面直接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面直接指導(スクーリング)】 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								
評価方法								
添削指導、面直接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。								

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史			地理総合		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	1	0	1				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載					書 名		
教科書	46 帝国	地総703	高等学校 新地理総合				
副教材等	46 帝国	地総702	新詳高等地図				
学習目標							
社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。【知識・技能】 (2)地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論することができる。【思考・判断・表現】 (3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
第1部 第1章 地図と地理情報システム 第2章 結び付きを深める現代世界 第2部 第1章 生活文化の多様性と国際世界(1～2節)				第2部 第1章 世界文化の多様性と国際世界(5節) 第2章 地球的課題と国際協力			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1部 第1章 地図と地理情報システム 第2章 結び付きを深める現代世界	【知識・技能】 ①地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①地図や地理情報システムの位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決することができる。			1	1・2	○
②	第2部 第1章 生活文化の多様性と国際世界 1節 世界地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	【知識・技能】 ①世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解することができる。			2	3・4	○
③	第2部 第1章 生活文化の多様性と国際世界 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活	【思考・判断・表現】 ①世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。			3	5・6	
④	第2部 第1章 世界文化の多様性と国際世界 5節 世界の産業と人々の生活	【知識・技能】 ①産業の発展が、人々の生活に与えた影響について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①産業のグローバル化についてと、地域の影響について考察し、表現することができる。			4	7・8	○
⑤	第2部 第2章 地球的課題と国際協力	【知識・技能】 ①地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。			5	9・10	○
⑥	第3部 第1章 自然環境と災害 第2章 生活圏の調査と地域の展望	【知識・技能】 ①自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。			6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史			地理探究		3	9	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
3	1	0	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載					書 名		
教科書	帝国書院	地探702	新詳地理探究				
副教材等	—	—	—				
学習目標							
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)地理に関わる事象の意図や意図、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統的地理的、地誌的に、概念的・多角的に活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。【思考力・判断力・表現力】 (3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して源(かん)養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛憎、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験					学年末試験		
①p.6～7 地球環境と人間 / p.8～31 地形 / p.32～41 気候 ②p.42～61 気候 / p.62～67 日本の自然環境 / p.68～79 地球環境問題					⑤p.146～153 交通・通信 / p.154～159 観光 / p.160～165 貿易と経済圏 / p.166～169 人口 / p.170～177 人口問題 / p.178～183 村落と都市 ⑥p.184～187 村落と都市 / p.188～197 都市・居住問題 / p.198～201 衣食住 / p.202～211 民族・宗教と民族問題 / p.212～220 国家の領域と領土問題 ⑦p.221～225 地域区分 / p.226～227 地域の考察方法 / p.228～237 中国 / p.238～243 韓国 / p.244～253 ASEAN諸国 / p.254～261 インド		
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	p.6～7 地球環境と人間 p.8～31 地形 p.32～41 気候	【知識・技能】 ①地球上の地形や気候・生態系にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①地球上の地形や気候・生態系にはどのような傾向や規則性があり、それらは人々の生活や人間活動にどのような影響を与えているのか、場所や人間と自然との関わりなどに着目して考察することができる。			1	1・2	○
②	p.42～61 気候 p.62～67 日本の自然環境 p.68～79 地球環境問題	【知識・技能】 ①地球上の気候・生態系にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。また、日本の自然環境について、その特徴を理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①地球上の地形や気候・生態系にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球の課題とどのように関わっているのか、場所や人間と自然との関わりなどに着目して考察することができる。また、日本の自然環境と自然災害の関係について考察することができる。			2	3・4	○
③	p.80～97 農林水産業 p.98～103 食料問題 p.104～115 エネルギー・鉱山資源	【知識・技能】 ①資源・エネルギーの開発や、農林水産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①資源・エネルギーの開発や、農林水産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球の課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。			3	5・6	
④	p.116～121 資源・エネルギー問題 p.122～139 工業 p.140～145 第3次産業	【知識・技能】 ①資源・エネルギーの開発や、工業・第3次産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①資源・エネルギーの開発や、工業・第3次産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球の課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。			4	7・8	
⑤	p.146～153 交通・通信 p.154～159 観光 p.160～165 貿易と経済圏 p.166～169 人口 p.170～177 人口問題 p.178～183 村落と都市	【知識・技能】 ①交通・通信網の整備や観光・貿易の発展、また人口や村落・都市にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①交通・通信網の整備や観光・貿易の発展、また人口・村落・都市にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球の課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。			5	9・10	○
⑥	p.184～187 村落と都市 p.188～197 都市・居住問題 p.198～201 衣食住 p.202～211 民族・宗教と民族問題 p.212～220 国家の領域と領土問題	【知識・技能】 ①人口や村落・都市、また生活文化や民族・宗教にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①人口や村落・都市、また生活文化や民族・宗教にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球の課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。			6	11・12	○
⑦	p.221～225 地域区分 p.226～227 地域の考察方法 p.228～237 中国 p.238～243 韓国 p.244～253 ASEAN諸国 p.254～261 インド	【知識・技能】 ①自然環境・文化・政治・経済などの指標をもとに地域を区分する方法を理解している。中国・韓国・ASEAN諸国・インドについて、自然環境や歴史・生活文化・産業などを項目ごとに整理し理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①世界のさまざまな地域について、位置や分布、地域の特徴などに着目して考察することができる。また、それぞれの地域では、どのような地域的特色や地球の課題がみられ、どのような地域の構造や変化がみられるのか、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して考察することができる。			7	13・14	○
⑧	p.262～269 西アジアと中央アジア p.270～279 北アフリカとサハラ以南アフリカ p.278～289 EU諸国 p.290～295 ロシア	【知識・技能】 ①西アジアと中央アジア・北アフリカとサハラ以南アフリカ・EU諸国・ロシアについて、自然環境や歴史・生活文化・産業などを項目ごとに整理し、理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①それぞれの地域では、どのような地域的特色や地球の課題がみられ、どのような地域の構造や変化がみられるのか、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して考察することができる。			8	15・16	
⑨	p.296～307 アメリカ合衆国 p.308～315 ラテンアメリカ p.316～322 オーストラリアとニュージーランド p.323～327 将来の国土のあり方 p.328～335 持続可能な日本の国土像の探究	【知識・技能】 ①アメリカ合衆国・ラテンアメリカ・オーストラリアとニュージーランドについて、自然環境や歴史・生活文化・産業などを項目ごとに整理し、理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①それぞれの地域では、どのような地域的特色や地球の課題がみられ、どのような地域の構造や変化がみられるのか、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して考察することができる。また、これまでの地理学習の集大成として、日本の強みや課題を整理したうえで、持続可能性を踏まえた将来の国土の在り方について、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して探究することができる。			9	17・18	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】							
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】							
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教師から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】							
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史			歴史総合		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	1	0	1				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名		
教科書	81 山川	歴総707	歴史総合 近代から現代へ				
副教材等	－	－	－				
学習目標							
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要 な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)近現代の歴史の変化に隣わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を 適切かつ効果的に調べることができる。【知識・技能】 (2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課 題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。【思考・判断・表現】 (3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民とし ての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
第Ⅰ部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第3章 明治維新と日本の立憲体制 第4章 帝国主義の展開とアジア				第Ⅱ部 第6章 経済危機と第二次世界大戦 第7章 戦後の日本秩序と日本の改革 第Ⅲ部 第8章 冷戦と世界経済			
【添削指導（報告課題）】							
	学習範囲		単元目標		報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第Ⅰ部 第1章 結びつく世界 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の の成立		【知識・技能】 ①16～17世紀のヨーロッパの世界進出、特にアジア諸地域との結びつきを理解することができる。 ②18世紀のヨーロッパの再編とアメリカ世界の成立について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①19世紀の世界諸地域の発展とグローバル化について考察することができる。		1	1・2	○
②	第Ⅰ部 第3章 明治維新と日本の立憲体制 第4章 帝国主義の展開とアジア		【知識・技能】 ①明治維新と日本の立憲体制について理解することができる。 ②帝国主義における欧米諸国の対立について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①欧米諸国との関わりの中から、20世紀初頭におけるアジアの変動を考察することができる。		2	3・4	○
③	第Ⅱ部 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 第6章 経済危機と第二次世界大戦		【知識・技能】 ①第一次世界大戦と戦後世界の情勢について理解することができる。 ②戦間期の動向(軍備制限と平和共存)について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①1910～20年代の歴史的事項と経済状況から当時の世界の動向を考察することができる。		3	5・6	
④	第Ⅱ部 第6章 経済危機と第二次世界大戦 第7章 戦後の日本秩序と日本の改革		【知識・技能】 ①戦間期の動向(世界恐慌とファシズムの台頭)について理解することができる。 ②第二次世界大戦に至る過程と日本の関りについて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①世界恐慌から第二次世界世界大戦までの歴史的事項から日本を中心とした戦後の動向につい て考察することができる。		4	7・8	○
⑤	第Ⅲ部 第8章 冷戦と世界経済		【知識・技能】 ①戦後の欧米諸国の動向とアジア・アフリカの独立と台頭について理解することができる。 ②冷戦構造とその崩壊について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①冷戦期の世界の動向を踏まえ、日本の経済的発展による繁栄とその影響について考察するこ とができる。		5	9・10	○
⑥	第三部 第9章 グローバル化する世界 第10章 現代の世界		【知識・技能】 ①冷戦構造の崩壊による新しい国際秩序の形成について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①現代の課題について世界的視点と日本の視点から考察することができる。		6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導（報告課題）】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導（スクーリング）】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

[illegible]

【 2025年度 】 年間指導計画①

[illegible]

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
公民			公共		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	1	0	1				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載					書 名		
教科書	190・東法	公共・712	公共				
副教材等	－	－	－				
学習目標							
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究し解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有力な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や議論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けることができる。【知識・技能】 (2)現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。【思考・判断・表現】 (3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して顕微される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことについての自覚などを深めることができる。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
第1編 公民の扉をひらくために 「公共」の見取り図 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方 第3章 公共的な空間における基本原則と日本国憲法				第2編 よりよい社会の形成に参画するために 「経済」の見取り図 第2章 経済のしくみ 第3章 変化する日本経済 第4章 豊かな生活の実現			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1編 公民の扉をひらくために「公共」の見取り図 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方	【知識・技能】 ①自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。 ②人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し、高め合うことのできる社会的な存在であること、伝言や文化、先人の取組や知識に助けられていることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。 ③自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していくとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ④選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義理を重視する考え方などについて理解している。 ⑤現代の諸課題について自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、上記に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探究することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 ⑥人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を形成する存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ②倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義理を重視する考え方などを活用し、自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。			1	1・2	○
②	第3章 公共的な空間における基本原則と日本国憲法	【知識・技能】 ①各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を図ることや、公共的な空間をつくる上で必要であることについて理解している。 ②人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 【思考・判断・表現】 ①公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。			2	3・4	○
③	第2編 よりよい社会の形成に参画するために「政治」の見取り図 第1章 政治の機構と政治参加	【知識・技能】 ①法・規範の意義及び役割について、国会・内閣の機能と役割や関係性について、世界の政治体制とそれぞれの特徴について、裁判所の機能と役割、人権を保障するためのしくみについて、司法参加の意義などに関わる現実社会の事例や課題について、地方自治、政治参加と公正な地域社会の形成などに関わる現実社会の事例や課題について理解している。 ②現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①政治活動に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論することができる。			3	5・6	
④	「経済」の見取り図 第2章 経済のしくみ	【知識・技能】 ①経済活動と経済主体、市場経済の機能と限界について、現代の企業の在り方と課題について、国民経済全体を語る国民所得などの指標、景気変動と物価の動向について、財政及び租税の役割、金融の働きなどに関わる現実社会の事例や課題について理解している。 ②現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①経済活動に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。			4	7・8	○
⑤	第3章 変化する日本経済 第4章 豊かな生活の実現	【知識・技能】 ①戦後の日本経済の推移、中小企業、農業問題、公害の防止と環境保全、エネルギーと循環型社会などに関わる現実社会の事例や課題について理解している。 ②日本経済の諸課題について、政府は法律の制定や政策の実施によって、課題解決に向けてどのような役割を果たしているか理解している。 ③多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢化における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事例や課題について理解している。 ④現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①日本経済、消費生活、労働問題、社会保障に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。			5	9・10	○
⑥	「国際」の見取り図 第5章 国際政治のしくみと動向 第6章 国際経済のしくみと動向 第7章 国際社会の現状と課題	【知識・技能】 ①国家主権、領土などに関わる現実社会の事例や課題について、人権保障が世界でどのように広がってきたか、国際連合の役割と課題について、第二次世界大戦後の国際社会の動向、冷戦終結後の国際社会の変容について、人権・民族・難民問題について、核兵器の廃絶などの事柄、国際平和に向けた世界の取り組みについて、我が国の安全保障と国際社会に関わる現実社会の事例や課題について理解している。 ②貿易と国際分業、海外市場のしくみと国際収支について、戦後国際経済の枠組みとその変化について、経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の事例や課題について理解している。 ③EUやUSMCAなどの地域経済の進展、南北問題や新興市場国などの国家間格差、地球環境問題をはじめとする地球規模の課題、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事例や課題を理解している。 ④現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①国際政治、国際経済、国際社会に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。			6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】							
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】							
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】							
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目			単位数	報告課題回数	定期試験回数
倫理			倫理			2	6	2
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	1	0	1					
※決定教科書は、発行者の番号・題名、教科書の記号・番号を記載			発行者の番号・題名または出版社名			教科書の記号・番号		
教科書			東京書籍	倫理701	倫理			
副教材等			—	—	—			
学習目標								
人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)古今東西の幅広い知の蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)立派した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験					学年末試験			
P8～P81 第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 1章 人間の心のあり方 2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ 1節 哲学なこと 2節 キリシヤの思想 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術					P121～P198 3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ 6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり 4章 国際社会に生きる日本人としての自覚 1節 日本人の精神風土 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 仏教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化			
【添削指導（報告課題）】								
	学習範囲			単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	P8～P42 第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 1章 人間の心のあり方 2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ 1節 哲学なこと 2節 キリシヤの思想			【知識・技能】 ①個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間心の在り方について理解することができる。 ②幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解すること。その際、人生における宗教や芸術の持つ意義についても理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者・集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。		1	1・2	○
②	P43～P81 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術			【知識・技能】 ①善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観について理解することができる。 ②真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。		2	3・4	○
③	P82～P120 3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ 1節 近代と人間疎張の精神 2節 近代思想の展開 3節 人格の尊厳と人倫の思想 4節 社会変革の思想 5節 理性への疑念			【知識・技能】 ①古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。		3	5・6	
④	P121～P156 6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり 4章 国際社会に生きる日本人としての自覚 1節 日本人の精神風土			【知識・技能】 ①古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解することができる。 ②古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。		4	7・8	○
⑤	P157～P198 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化			【知識・技能】 ①古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解することができる。 ②古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。		5	9・10	○
⑥	P199～P235 7節 国際社会に生きる日本人の自覚 第2編 現代の諸課題と倫理			【知識・技能】 ①古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解することができる。 ②古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。		6	11・12	
学 習 方 法								
【添削指導（報告課題）】								
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴（チェックテストを含む）」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。								
【面接指導（スクーリング）】								
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
【定期試験】								
1 実施回数 前期1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								
評 価 方 法								
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。								

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目			単位数	報告課題回数	定期試験回数
政治・経済			政治・経済			2	6	2
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数	(1)-(2)-(3)						
2	Web(2) 放送視聴(3)	1						
※検定教科書は、発行者の番号・題名・教科書の記号・番号を記載			書 名					
教科書	東京書籍	政経701	政治・経済					
副教材等	—	—	—					
学習目標								
社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。【知識・技能】 ②国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。【思考・判断・表現力】 ③よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深めている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験			学年末試験					
P4～P79 第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原 理 2節 日本の政治機構			P119～P203 第2章 現代日本の経済 3節 日本経済の発展と現状 第3章 現代日本の諸課題 第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治					
【添削指導(報告課題)】								
学習範囲			単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	P4～P47 第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原 理 2節 日本国憲法の基本原 理		【知識・技能】 ①政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。			1	1・2	○
②	P48～P79 3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特徴と課題		【知識・技能】 ①政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 ②現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。			2	3・4	○
③	P80～P118 第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済 2節 現代経済のしくみ		【知識・技能】 ①経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。			3	5・6	
④	P119～P155 3節 日本経済の発展と現状 4節 福祉社会と日本経済の課題		【知識・技能】 ①経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 ②現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。			4	7・8	○
⑤	P156～P203 第3章 現代日本の諸課題 第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治		【知識・技能】 ①国際社会の変遷、人権、国家主権、領土(領海、領空を含む。)などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①国際社会の特徴や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。			5	9・10	○
⑥	P204～P254 第2章 現代の国際経済 第3章 国際社会の諸課題		【知識・技能】 ①貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 ②現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①相互依存関係が深まる国際経済の特徴について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。			6	11・12	
学 習 方 法								
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクリーニング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								
評 価 方 法								
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。								

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等				科 目				単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学				数学Ⅰ				3	9	2
面接指導										
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)							
	Web(2)	放送視聴(3)								
3	1	0	2							
※検定教科書は、発行者の番号・題名・教科書の記号・番号を記載				書 名						
教科書	東京書籍	702	数学Ⅰ Standard							
副教材等	—	—	—							
学習目標										
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表す、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)数字のよさを認識し数学を活用しようとするともに、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとして、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。										
定期試験範囲										
一学期末試験				学年末試験						
1章 数と式 1節 式の計算 2節 実数 3節 1次不等式				3章 2次関数 2節 2次方程式と2次不等式 4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 2節 三角比の拡張						
〔添削指導(報告課題)〕										
	学習範囲			単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	1章 数と式 1節 式の計算			【知識・技能】 ①二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。			1	1・2	○	
	1章 数と式 2節 実数 3節 1次不等式			【知識・技能】 ①数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。 ②不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①不等式の性質を基に一次不等式を考察することができる。 ②日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。			2	3・4	○	
③	2章 集合と論証 1節 集合 2節 命題と論証			【知識・技能】 ①集合と命題に関する基本的な概念を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。			3	5・6		
④	3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ			【知識・技能】 ①二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 ②二次関数の最大値や最小値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかかなどして多面的に考察することができる。			4	7・8		
⑤	3章 2次関数 2節 2次方程式と2次不等式			【知識・技能】 ①二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解することができる。また、二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。			5	9・10	○	
⑥	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比			【知識・技能】 ①鋭角の三角比の意味と相互関係について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。			6	11・12	○	
⑦	4章 図形と計量 2節 三角比の拡張			【知識・技能】 ①三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。			7	13・14	○	
⑧	4章 図形と計量 3節 三角形への応用			【知識・技能】 ①正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。			8	15・16		
⑨	5章 データの分析 1節 データの分析 2節 データの分析の応用 3節 仮説検定			【知識・技能】 ①分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解することができる。 ②コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 ③具体的な事象において仮説検定の考え方を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 ②目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 ③不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。			9	17・18		
学 習 方 法										
〔添削指導(報告課題)〕										
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。										
〔面接指導(スクーリング)〕										
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。										
〔定期試験〕										
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。										
評 価 方 法										
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。										

【 2025年度 】 年間指導計画①

教科等			科目			単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学			数学Ⅱ			4	12	2
面接指導								
規定回数(1)		メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
		Web(2)	放送視聴(3)					
4		2		0		2		
※規定教科書は、発行者の番号・題称、教科書の記号・番号を記載						書名		
教科書		東京書籍		数Ⅱ702		数学Ⅱ Standard		
副教材等		—		—		—		
学習目標								
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く数式・数論に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。								
定期試験範囲								
一学期末試験					学年末試験			
P8～P67 1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分式式の計算 3節 高次方程式					P118～P176 3章 三角関数 1節 三角関数 2節 加法定理 4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数			
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲		単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	P10～P23 1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分式式の計算		【知識・技能】 ①三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ②多項式の除法や分式式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすることができる。 【思考・判断・表現】 ①計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。			1	1・2	○
②	P24～P39 1章 方程式・式の証明 2節 2次方程式		【知識・技能】 ①数を乗数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。 ②二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解をすることができる。 【思考・判断・表現】 ①日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。			2	3・4	○
③	P40～P62 1章 方程式・式の証明 3節 高次方程式 4節 式と証明		【知識・技能】 ①因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。			3	5・6	○
④	P70～P89 2章 図形と直線 1節 点と直線		【知識・技能】 ①座標を用いて、平面上の直線を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表すことができる。 【思考・判断・表現】 ①座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。			4	7・8	
⑤	P90～P102 2章 図形と方程式 2節 円		【知識・技能】 ①座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。 【思考・判断・表現】 ①平面上の円を、2次方程式を用いて表現し、円と直線の位置関係について考察することができる。			5	9・10	
⑥	P103～P113 2章 図形と領域 1節 軌跡と領域		【知識・技能】 ①軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 ②簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 【思考・判断・表現】 ①数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。			6	11・12	
⑦	P120～P144 3章 三角関数 1節 三角関数		【知識・技能】 ①角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解をすることができる。 ②三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解をすることができる。 ③三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解すること。 【思考・判断・表現】 ①三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。			7	13・14	○
⑧	P145～P155 3章 三角関数 2節 加法定理		【知識・技能】 ①三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解をすることができる。 【思考・判断・表現】 ①三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 ②二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。			8	15・16	○
⑨	P162～P176 4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数		【知識・技能】 ①指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 ②指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解をすることができる。 【思考・判断・表現】 ①(ア)指数と対数を相互に関連付けて考察すること。 (イ)指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察すること。 (ウ)二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。			9	17・18	○
⑩	P177～P192 4章 指数関数・対数関数 2節 対数関数		【知識・技能】 ①対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。 ②対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解をすることができる。 【思考・判断・表現】 ①対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 ②二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。			10	19・20	
⑪	P200～P226 5章 微分と積分 1節 微分の考え		【知識・技能】 ①微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 ②導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①関数とその導関数との関係について考察をすることができる。 ②関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。			11	21・22	
⑫	P227～P247 5章 微分と積分 2節 積分の考え		【知識・技能】 ①不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察すること。			12	23・24	
学 習 方 法								
【添削指導(報告課題)】								
1 クラークWebチャンネル/パス(報告課題サポート)内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。								
【面接指導(スクーリング)】								
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
【定期試験】								
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
数学			数学Ⅲ		3	9	2	
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
3	1	0	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			発行者の番号・略称 または出版社名		教科書の記号・番号		書 名	
教科書		東京書籍	数Ⅲ702		数学Ⅲ Standard			
副教材等		—	—		—			
学 習 目 標								
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発散的に考察したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
1章 関数と極限 1節 関数 2節 数列の極限 3節 関数の極限				3章 微分の応用 1節 関数の増減 2節 微分のいろいろな応用 4章 積分とその応用 1節 不定積分				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲		単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	1章 関数と極限 1節 関数 2節 数列の極限		【知識・技能】 ①数列の極限について理解し、数列 $\{r^n\}$ の極限などを基に簡単な数列の極限を求めることができる。 ②無限級数の収束・発散について理解し、無限等比級数などの簡単な無限級数の和を求めることができる。 ③簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 ④合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察することができる。			1	1・2	○
②	1章 関数と極限 3節 関数の極限		【知識・技能】 ①関数の値の極限について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①既に学習した関数の性質や関連付けて、簡単な分数関数と無理関数のグラフの特徴を多面的に考察することができる。			2	3・4	○
③	2章 微分 1節 微分法		【知識・技能】 ①微分可能性、関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求めることができる。 ②合成関数の導関数について理解し、それを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察することができる。			3	5・6	
④	2章 微分 2節 いろいろな関数の導関数		【知識・技能】 ①三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解し、それらを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や第二次導関数の関係について考察することができる。			4	7・8	
⑤	3章 微分の応用 1節 関数の増減		【知識・技能】 ①導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をいかたりすることができる。 【思考・判断・表現】 ①いろいろな関数の値の増減を調べ、極大・極小、グラフの凹凸の関係を考察することができる。			5	9・10	○
⑥	3章 微分の応用 2節 微分のいろいろな応用		【知識・技能】 ①導関数を用いて、関数の最大値、最小値を求めたりすることができる。 ②微分法を用いて、不等式の証明、方程式の実数解の個数、速度や加速度、近似値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。			6	11・12	○
⑦	4章 積分とその応用 1節 不定積分		【知識・技能】 ①不定積分及び定積分の基本的な性質についての理解を深め、それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察することができる。			7	13・14	○
⑧	4章 積分とその応用 2節 定積分		【知識・技能】 ①置換積分法及び部分積分法について理解し、簡単な場合について、それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①極限や定積分の考えを基に、立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察することができる。			8	15・16	
⑨	4章 積分とその応用 3節 面積・体積・長さ		【知識・技能】 ①定積分を利用して、いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さなどを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①微分と積分との関係に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。			9	17・18	
学 習 方 法								
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。								
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								
評 価 方 法								
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。								

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学			数学A		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	1	0	1				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			教科書の記号・番号		書 名		
教科書	東京書籍	702	数学A Standard				
副教材等	－	－	－				
学習目標							
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとするとともに、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
1章 場合の数と確率 1節 集合と場合の数 2節 確率とその基本性質				2章 図形の性質 1節 三角形と比 2節 円の性質 3節 空間図形			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	1章 場合の数と確率 1節 集合と場合の数	【知識・技能】 ①集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解することができる。 ②具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。			1	1・2	○
②	1章 場合の数と確率 2節 確率とその基本性質	【知識・技能】 ①確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。			2	3・4	○
③	1章 場合の数と確率 3節 いろいろな確率	【知識・技能】 ①独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 ②条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。			3	5・6	
④	2章 図形の性質 1節 三角形と比	【知識・技能】 ①三角形に関する基本的な性質について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。			4	7・8	○
⑤	2章 図形の性質 2節 円の性質 3節 空間図形	【知識・技能】 ①円に関する基本的な性質について理解することができる。 ②空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどとして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。			5	9・10	○
⑥	3章 数学と人間の活動 1節 数える 2節 はかる 3節 遊ぶ	【知識・技能】 ①数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解することができる。 ②数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについての理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 ②パズルなどに数学的な要素を見いだし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。			6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学			数学B		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	1	0	1				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載					書 名		
教科書	東京書籍	数B702	数学B Standard				
副教材等	－	－	－				
学習目標							
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。【知識・技能】 (2)離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数値化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
P8～P57 1章 数列 1節 数列 3節 漸化式と数学的帰納法				P82～P130 2章 統計的な推測 3節 正規分布 3章 数学と社会生活 1節 数学的モデル化 3節 確率モデル			
2節 いろいろな数列				4節 統計的な推測 2節 関数モデル			
【添削指導（報告課題）】							
	学習範囲		単元目標		報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	P10～P40 1章 数列 1節 数列 2節 いろいろな数列		【知識・技能】 ①等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 ②いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 ②事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。		1	1・2	○
②	P42～P55 1章 数列 3節 漸化式と数学的帰納法		【知識・技能】 ①漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 ②数学的帰納法について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。		2	3・4	○
③	P60～P81 2章 統計的な推測 1節 標本調査 2節 確率分布		【知識・技能】 ①標本調査の考え方について理解を深めることができる。 ②確率変数と確率分布について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。		3	5・6	
④	P82～P109 2章 統計的な推測 3節 正規分布 4節 統計的な推測		【知識・技能】 ①二項分布と正規分布の性質や特徴について理解することができる。 ②正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。		4	7・8	○
⑤	P114～P130 3章 数学と社会生活 1節 数学的モデル化 2節 関数モデル 3節 確率モデル		【知識・技能】 ①社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①日常の事象や社会の事象において、数・量・形やそれらの関係に着目し、理想化したり単純化したりして、問題を数学的に表現することができる。 ②数値化した問題の特徴を見だし、解決することができる。		5	9・10	○
⑥	P131～P140 3章 数学と社会生活 4節 幾何モデル 5節 フェルミ推定		【知識・技能】 ①日常の事象や社会の事象などを数値化し、数理的に問題を解決する方法を知ることができる。 【思考・判断・表現】 ①問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察することができる。 ②解決過程を振り返り、そこで用いた方法を一般化して、他の事象に活用することができる。		6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導（報告課題）】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴（チェックテストを含む）」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導（スクーリング）】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学			数学C		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	1	0	1				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載					書 名		
教科書	東京書籍	数C702	数学C Standard				
副教材等	—	—	—				
学習目標							
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 2節 ベクトルの応用				2章 平面上の曲線 1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標 3章 複素数平面 1節 複素数平面 2節 図形への応用			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル	【知識・技能】 ①平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。			1	1・2	○
②	1章 ベクトル 2節 ベクトルの応用	【知識・技能】 ①ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。			2	3・4	○
③	1章 ベクトル 3節 空間におけるベクトル	【知識・技能】 ①座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用することができる。			3	5・6	
④	2章 平面上の曲線 1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標	【知識・技能】 ①放物線、楕円、双曲線が二次式で表されることが及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解することができる。 ②曲線の媒介変数表示について理解することができる。 ③極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることがについて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察することができる。			4	7・8	○
⑤	3章 複素数平面 1節 複素数平面 2節 図形への応用	【知識・技能】 ①複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解することができる。 ②ド・モアブルの定理について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察することができる。			5	9・10	○
⑥	4章 数学的な表現の工夫 1節 統計グラフに表す 2節 行列に表す 3節 離散グラフに表す	【知識・技能】 ①日常の事象や社会の事象などを、図、表、統計グラフなどを用いて工夫して表現することの意義を理解することができる。 ②日常の事象や社会の事象などを、離散グラフや行列を用いて工夫して表現することの意義を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①図、表、統計グラフ、離散グラフ及び行列などを用いて、日常の事象や社会の事象などを数学的に表現し、考察することができる。			6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科			科学と人間生活		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
8	4	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			書 名				
教科書	104・数研	科人・704	科学と人間生活				
副教材等	－	－	－				
学習目標							
自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】 (3)自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとするともに、科学に対する興味・関心を高めている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
序編 科学技術の発展 第1編 物質の科学				第3編 光や熱の科学 第4編 宇宙や地球の科学			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲		単元目標		報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	序編 科学技術の発展		【知識・技能】 ①科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現することができる。		1	1・2	○
②	第1編 物質の科学		【知識・技能】 ①身近な材料に関する観察、実験などをおこない、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解している。 ②衣料と食品に関する観察、実験などを行い、身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について、日常生活と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①物質の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。		2	3・4	○
③	第2編 生命の科学		【知識・技能】 ①ヒトの生命現象に関する観察、実験などを行い、ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解している。 ②微生物に関する観察、実験などを行い、微生物の働きを人間生活と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①生命の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。		3	5・6	
④	第3編 光や熱の科学		【知識・技能】 ①光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解することができる。 ②熱に関する観察、実験などを行い、熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について、日常生活と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①光や熱の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。		4	7・8	○
⑤	第4編 宇宙や地球の科学		【知識・技能】 ①天体に関する観察、実験などを行い、太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連付けて理解することができる。 ②自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①宇宙や地球の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。		5	9・10	○
⑥	終編 これからの科学と人間生活 資料編 将来×サイエンス Newspaper 未来をひらくSCIENCE		【知識・技能】 ①これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めている。 【思考・判断・表現】 ①これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現することができる。		6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科			物理基礎		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
8	4	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書 名		
教科書		183・第一	物基・709	高等学校 物理基礎			
副教材等		－	－	－			
学習目標							
物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】 (3)物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
第Ⅰ章 第1節 物体の運動 第2節 力と運動の法則				第Ⅱ章 熱とエネルギー 第Ⅲ章 第1節 波の性質 第2節 音波			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲		単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第Ⅰ章 第1節 物体の運動 (教科書p.12～49)		【知識・技能】 ①身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を身に付けている。 ②物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①速度が変化する物体の直線運動に関する実験などを行い、速度と時間との関係を見いだして理解するとともに、物体が直線運動する場合の加速度を表現することができる。		1	1・2	○
②	第Ⅰ章 第2節 力と運動の法則 (教科書p.50～87)		【知識・技能】 ①物体に様々な力が働くことを理解することができる。 ②物体に働く力のつり合いを理解することができる。 ③物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動との関係について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①物体に一定の力を加え続けたときの運動に関する実験などを行い、物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を見いだして理解するとともに、運動の三法則を表現することができる。		2	3・4	○
③	第Ⅰ章 第3節 仕事と力学的エネルギー (教科書p.88～113)		【知識・技能】 ①運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①力学的エネルギーに関する実験などを行い、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて表現することができる。		3	5・6	
④	第Ⅱ章 熱とエネルギー (教科書p.116～135)		【知識・技能】 ①熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①熱に関する実験などを行い、熱の移動及び熱と仕事の交換について表現することができる。		4	7・8	○
⑤	第Ⅲ章 第1節 波の性質 第2節 音波 (教科書p.138～191)		【知識・技能】 ①波の性質について、直線状に伝わる場合を理解することができる。 ②弦の振動、音波の性質を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連付けて表現することができる。		5	9・10	○
⑥	第Ⅳ章 第1節 静電気と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用 (教科書p.194～241)		【知識・技能】 ①物質によって抵抗率が異なることを理解することができる。 ②発電、送電及び電気の利用について、基本的な仕組みを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①電気抵抗に関する実験などを行い、同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを見いだして表現することができる。		6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科		物理		4	12	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる講義回数 Web(2) 放送視聴(3)		(1)-(2)-(3)			
16	9	0	7			
※標準教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載 発行者の番号・略称 または出版社名 教科書の記号・番号				書 名		
教科書	東京書籍	物理701	物理			
副教材等	—	—	—			
学習目標						
物理的な事象・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。【知識・技能】 (2) 実験、観察などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3) 物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。						
定期試験範囲						
一学期末試験				学年末試験		
①1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動・2章 剛体のつり合い(P8～P42) ②1編 さまざまな運動 3章 運動量・4章 円運動(P43～P84) ③1編 さまざまな運動 5章 単振動・6章 万有引力(P85～P120)				⑦3編 電気と磁気 1章 電場と電位(P231～P274) ⑧3編 電気と磁気 2章 電流(P275～P302) ⑨3編 電気と磁気 3章 電流と磁場(P303～P326)		
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動・2章 剛体のつり合い (P8～P42)	【知識・技能】 ①速度と加速度の関係について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②水平投射及び斜方投射された物体の運動を直線運動と関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①大きさのある物体のつり合いに関する実験を通して探究し、剛体のつり合い条件について理解し、規則性や関係性を見いだして表現できる。		1	1・2	○
②	1編 さまざまな運動 3章 運動量・4章 円運動 (P43～P84)	【知識・技能】 ①運動量と力積の関係について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②円運動をする物体に働く力などについて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①物体の衝突や分裂に関する実験を通して探究し、運動量保存の法則を理解し、規則性や関係性を見いだして表現できる。		2	3・4	○
③	1編 さまざまな運動 5章 単振動・6章 万有引力 (P85～P120)	【知識・技能】 ①単振動に働く力を理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①振り子に関する実験を通して探究し、単振動の規則性を見いだして理解するとともに、単振動をする物体の様子を表現できる。 ②惑星の観測に基づいて、惑星の運動に関する法則を理解し、それを説明することができる。		3	5・6	○
④	1編 さまざまな運動 7章 気体分子の運動 (P121～P158)	【知識・技能】 ①気体分子の運動と圧力との関係について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②気体の内部エネルギーについて、気体分子の運動と関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①気体の状態変化に関する実験などを通して探究し、熱、仕事及び内部エネルギーの関係を理解し、気体の状態変化における規則性・関係性を見いだして表現できる。		4	7・8	
⑤	2編 波 1章 波の伝わり方・2章 音 (P159～P188)	【知識・技能】 ①波の伝わり方・波の干渉と回折について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②音の干渉と回折・ドップラー効果について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①波の表し方について理解し、横波、縦波の波の伝わり方を表現できる。		5	9・10	
⑥	2編 波 3章 光 (P189～P230)	【知識・技能】 ①光の伝わり方・回折と干渉について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①光の回折と干渉に関する実験を通して探究し、光の回折と干渉を光波の性質と関連付けて理解し、規則性や関係性を見いだして表現できる。		6	11・12	
⑦	3編 電気と磁気 1章 電場と電位 (P231～P274)	【知識・技能】 ①電荷が相互に及ぼしあう力について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②電場と電位との関係を静電気による位置エネルギーと関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ③コンデンサーの性質を踏まえて、電気容量を電界や電位差と関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①電荷が相互に及ぼしあう力を理解し、様々な状態の電界を表現できる。		7	13・14	○
⑧	3編 電気と磁気 2章 電流 (P275～P302)	【知識・技能】 ①直列回路における電流・電圧・抵抗の関係を理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②並列回路における電流・電圧・抵抗の関係を理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①電気回路に関する実験を通して探究し、電気回路における規則性や関係性を見いだして表現できる。		8	15・16	○
⑨	3編 電気と磁気 3章 電流と磁場 (P303～P326)	【知識・技能】 ①電流がつくる磁界の様子を理解することができる。 ②電流が磁界から受ける力について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①電流が磁界から受ける力に関する実験を通して探究し、電流・磁界・力の関係性を見いだして表現できる。		9	17・18	○
⑩	3編 電気と磁気 4章 電磁誘導と電磁波 (P327～P372)	【知識・技能】 ①電磁誘導の性質について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②電磁波の性質とその利用について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①電磁誘導に関する実験を通して探究し、磁束の変化と誘起電流の向きや大きさとの関係を見いだして表現できる。		10	19・20	
⑪	4編 原子 1章 電子と光 (P373～P394)	【知識・技能】 ①電子の電荷と質量について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②電子や光の粒子性と波動性について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①電子や光の粒子性に関する実験を通して探究し、電子の粒子性に関する規則性や関係性を見いだして表現できる。		11	21・22	
⑫	4編 原子 2章 原子と原子核 終章 (P395～P457)	【知識・技能】 ①原子の構造及びスペクトルと電子のエネルギー準位について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②原子核の構成、原子核の崩壊及び核反応について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ③素粒子の存在について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①原子核の崩壊及び核反応の発現性について探究し、エネルギー問題について考え、その結果を表現することができる。		12	23・24	
学 習 方 法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評 価 方 法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科			化学基礎		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
8	4	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称 または出版社名		教科書の記号・番号		書 名	
教科書		183・第一		化基・711		高等学校 化学基礎	
副教材等		－		－		－	
学習目標							
物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】 (3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
第Ⅰ章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表				第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 第2節 酸と塩基の反応			
【添削指導(報告課題)】							
学習範囲		単元目標		報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	第Ⅰ章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素	【知識・技能】 ①粒子の熱運動と温度との関係、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①化学と人間生活との関わりについての観察、実験などを通して、物質を対象とする科学である化学の特徴について理解するとともに、実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付けている。		1	1・2	○	
②	第Ⅰ章 物質の構成 第2節 原子の構造と元素の周期表	【知識・技能】 ①原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解することができる。		2	3・4	○	
③	第Ⅰ章 物質の構成 第3節 物質と化学結合	【知識・技能】 ①イオンの生成を電子配置と関連付けて理解するとともに、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解している。 ②共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解することができる。 ③金属の性質及び金属結合を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①物質の構成について、観察、実験などを通して探究し、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現することができる。		3	5・6		
④	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式	【知識・技能】 ①物質量と化学反応式、化学反応について、物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解することができる。 ②化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化とその利用について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現することができる。		4	7・8		○
⑤	第Ⅱ章 物質の変化 第2節 酸と塩基の反応	【知識・技能】 ①酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化とその利用について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現することができる。		5	9・10		○
⑥	第Ⅱ章 物質の変化 第3節 酸化還元反応	【知識・技能】 ①酸化と還元が電子の授受によることを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化とその利用について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現することができる。		6	11・12		
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目			単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科			化学			4	12	2
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
16	9	0	7					
※検定教科書は、発行者の番号・題名・ 題称、教科書の記号・番号を記載						書 名		
教科書	第一学習社	化学708	高等学校 化学					
副教材等	－	－	－					
学習目標								
化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身に付けることができる。【知識・技能】 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を付けている。【思考・判断・表現】 (3)化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験						学年末試験		
①第Ⅰ章 物質の状態 第1節 物質の状態変化(P6～P19)／第2節 気体の性質(P20～P37) ②第Ⅰ章 物質の状態 第3節 固体の構造(P38～P53)／第4節 溶液の性質(P54～P83) ③第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第1節 化学反応と熱・光(P86～P109)						①第Ⅲ章 無機物質 第1節 周期表と元素の性質(P194～P199)／第2節 非金属元素(P200～P219) ②第Ⅲ章 無機物質 第3節 典型金属元素(P220～P233)／第4節 遷移元素(P234～P259) ③第Ⅳ章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴(P262～P271)／第2節 脂肪族炭化水素(P272～P289)		
【添削指導(報告課題)】								
学習範囲			単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第Ⅰ章 物質の状態 第1節 物質の状態変化(P6～P19) 第2節 気体の性質(P20～P37)		【知識・技能】 ①物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連付けて理解している。また、状態変化に伴うエネルギーの出入り及び状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解している。 ②気体の体積と圧力や温度との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の状態について、観察、実験などを通して探究し、物質の状態とその変化における規則性や関係性を見いだして表現できる。			1	1・2	○
②	第Ⅰ章 物質の状態 第3節 固体の構造(P38～P53) 第4節 溶液の性質(P54～P83)		【知識・技能】 ①結晶格子の概念及び結晶の構造を理解している。 ②溶解の仕組みを理解している。また、溶解度を溶解平衡と関連付けて理解している。 ③溶液とその性質に関する実験などを行い、身近な現象を通して溶解と溶液の性質の違いを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①物質の状態と平衡について、観察、実験などを通して探究し、物質の状態とその変化、溶液と平衡における規則性や関係性を見いだして表現できる。			2	3・4	○
③	第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第1節 化学反応と熱・光(P86～P109)		【知識・技能】 ①化学反応と熱や光に関する実験などを行い、化学反応における熱及び光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差から生じることを理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化について、観察、実験などを通して探究し、化学反応とエネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現できる。			3	5・6	○
④	第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第2節 電池・電気分解(P110～P129)		【知識・技能】 ①電気エネルギーを取り出す電池の仕組みを酸化還元反応と関連付けて理解している。 ②外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを、酸化還元反応と関連付けて理解している。また、その反応に関与した物質の変化量と電気量との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化について、観察、実験などを通して探究し、化学反応とエネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現できる。			4	7・8	
⑤	第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第3節 化学反応の速さ(P130～P147) 第4節 化学平衡(P148～P165)		【知識・技能】 ①反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解している。 ②可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化と平衡について、観察、実験などを通して探究し、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現できる。			5	9・10	
⑥	第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第5節 電離平衡(P166～P191)		【知識・技能】 ①水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基の電離平衡について理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化と平衡について、観察、実験などを通して探究し、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現できる。			6	11・12	
⑦	第Ⅲ章 無機物質 第1節 周期表と元素の性質(P194～P199) 第2節 非金属元素(P200～P219)		【知識・技能】 ①典型元素に関する実験などを行い、典型元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①無機物質について、観察、実験などを通して探究し、典型元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。			7	13・14	○
⑧	第Ⅲ章 無機物質 第3節 典型金属元素(P220～P233) 第4節 遷移元素(P234～P259)		【知識・技能】 ①典型元素に関する実験などを行い、典型元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解することができる。 ②遷移元素の単体と化合物の性質を理解している。 【思考・判断・表現】 ①無機物質について観察、実験などを通して探究し、典型元素、遷移元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。			8	15・16	○
⑨	第Ⅳ章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴(P262～P271) 第2節 脂肪族炭化水素(P272～P289)		【知識・技能】 ①脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①有機化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。			9	17・18	○
⑩	第Ⅳ章 有機化合物 第3節 炭素を含む脂肪族化合物(P290～P315) 第4節 芳香族化合物(P316～P343)		【知識・技能】 ①官能基をもつ脂肪族化合物に関する実験などを行い、その構造、性質及び反応について理解することができる。 ②芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解している。 【思考・判断・表現】 ①有機化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。			10	19・20	
⑪	第Ⅴ章 高分子化合物 第1節 天然高分子化合物(P346～P347) 第2節 天然高分子化合物(P348～P383)		【知識・技能】 ①天然高分子化合物の構造や性質について理解している。 【思考・判断・表現】 ①高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。			11	21・22	
⑫	第Ⅴ章 高分子化合物 第3節 合成高分子化合物(P384～P405)		【知識・技能】 ①合成高分子化合物の構造、性質及び合成について理解している。 【思考・判断・表現】 ①高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。			12	23・24	
学 習 方 法								
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。								
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けた後、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								
評 価 方 法								
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。								

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科		生物基礎		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
8	4	0	4			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名		
教科書	183・第一	生基・710	高等学校 生物基礎			
副教材等	—	—	—			
学習目標						
生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】 (3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上(1)から(3)を踏まえ、生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指す。						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
顕微鏡観察(教科書p.14～17) 第1編第1章(教科書p.18～53) 第1編第2章(教科書p.54～91)			第2編第3章第2節(p.116～141) 第3編第4章(p.142～183)			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	顕微鏡観察(教科書p.14～17) 第1編第1章(教科書p.18～53)	【知識・技能】 ①様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解するとともに、生物の共通性と起源の共有に関連付けて理解することができる。 ②生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解するとともに、光合成や呼吸などの代謝と ATP を関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現することができる。		1	1・2	○
②	第1編第2章(教科書p.54～91)	【知識・技能】 ①DNA の構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴を見いだして理解するとともに、塩基の相補性と DNA の複製に関連付けて理解することができる。 ②遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現することができる。		2	3・4	○
③	第2編第3章第1節(p.92～115)	【知識・技能】 ①体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解するとともに、体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達体が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。 ②ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現することができる。		3	5・6	
④	第2編第3章第2節(p.116～141)	【知識・技能】 ①免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現することができる。		4	7・8	○
⑤	第3編第4章(p.142～183)	【知識・技能】 ①植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解するとともに、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現することができる。		5	9・10	○
⑥	第3編第5章(p.184～217)	【知識・技能】 ①生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱に関連付けて理解するとともに、生態系の保全の重要性を認識することができる。 【思考・判断・表現】 ①生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性を見いだして理解するとともに、生物の種多様性と生物間の関係性をと関連付けて理解することができる。 ②生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現することができる。		6	11・12	
学 習 方 法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評 価 方 法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科			生物		4	12	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
16	9	0	7				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載					書 名		
教科書	第一学習社	生物705	高等学校 生物				
副教材等	—	—	—				
学習目標							
生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上(1)から(3)を踏まえ、生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指す。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
第1編第1章(教科書p.14～59) 第1編第2章(教科書p.60～89) 第2編第3章(教科書p.90～123)				第3編第7章(教科書p.208～233) 第4編第8章第1節①～④(教科書p.234～257) 第4編第8章第1節⑤～⑥、第2節(教科書p.258～283)			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1編 第1章 生物の進化(教科書p.14～59)	【知識・技能】 ①生命の起源と細胞の進化に関する資料に基づいて、生命の起源に関する考えを理解するとともに、細胞の進化を地球環境の変化と関連付けて理解している。 ②遺伝子の変化に関する資料に基づいて、突然変異と生物の形質の変化との関係を見いだして理解している。 ③支配遺伝子の機能などの資料に基づいて、遺伝子の組合せが変化するを見いだして理解している。 【思考・判断・表現】 ①進化の仕組みに関する観察、実験などを行い、遺伝子頻度に変化する要因を見いだして科学的に探究している。			1	1・2	○
②	第1編 第2章 生物の系統と進化(教科書p.60～89)	【知識・技能】 ①生物の遺伝情報に関する資料に基づいて、生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を見いだして理解している。 ②進化に関する資料に基づいて、人類の系統と進化を形態的特徴などに関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①系統と進化に関する観察、実験などを行い、分類階級や分子系統から見た生物の進化について科学的に探究している。			2	3・4	○
③	第2編 第3章 細胞と分子(教科書p.90～123)	【知識・技能】 ①生物物質と細胞に関する資料に基づいて、細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①生命現象とタンパク質に関する観察、実験などを行い、タンパク質の機能を生命現象と関連付けて科学的に探究している。			3	5・6	○
④	第2編 第4章 代謝(教科書p.124～157)	【知識・技能】 ①呼吸に関する資料に基づいて、呼吸をエネルギーの流れと関連付けて理解している。 ②光合成に関する資料に基づいて、光合成をエネルギーの流れと関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①光合成に関する観察、実験などを行い、植物の光合成色素の色とRf値、光合成色素の種類の関係について科学的に探究している。			4	7・8	
⑤	第3編 第5章 遺伝情報とその発現 第6章 遺伝子の発現調節と発生 第1節(教科書p.158～181)	【知識・技能】 ①DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製の仕組みを理解すること。また、遺伝子発現に関する資料に基づいて、遺伝子の発現の仕組みを理解している。 ②遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見いだして理解すること。また、転写の調節をそれに関わるタンパク質と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①遺伝情報とその発現に関する観察、実験などを行い、セントラルドグマやその仕組みについて科学的に探究している。			5	9・10	
⑥	第3編 第6章 遺伝子の発現調節と発生 第2節(教科書p.182～207)	【知識・技能】 ①発生に関わる遺伝子の発現に関する資料に基づいて、発生の過程における分化を遺伝子発現の調節と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①つ二など動物の受精に関する観察、実験などを行い、動物の受精条件や発生過程について科学的に探究している。			6	11・12	
⑦	第3編 第7章 遺伝子扱う技術とその応用(教科書p.208～233)	【知識・技能】 ①遺伝子扱う技術について、その原理と有用性を理解している。 【思考・判断・表現】 ①細胞への遺伝子導入に関する観察、実験などを行い、遺伝子の組み換えやその発現について科学的に探究している。			7	13・14	○
⑧	第4編 第9章 動物の反応と行動 第1節①～④(教科書p.234～257)	【知識・技能】 ①刺激の受容と反応に関する資料に基づいて、外界の刺激を受容し神経系を介して反応する仕組みを、関与する細胞の特性と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①視覚に関する観察、実験などを行い、ヒトの盲点の形や入光量・遠近の調節について科学的に探究している。			8	15・16	○
⑨	第4編 第8章 動物の反応と行動 第1節⑤～⑥、第2節(教科書p.258～283)	【知識・技能】 ①動物の行動に関する資料に基づいて、行動を神経系の働きと関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①動物の行動に関する観察、実験などを行い、習得的行動と学習についてその原理を科学的に探究している。			9	17・18	○
⑩	第4編 第9章 植物の成長と環境応答(教科書p.284～321)	【知識・技能】 ①植物の環境応答に関する資料に基づいて、刺激に対する応答やその方向性について理解している。 【思考・判断・表現】 ①植物の環境応答に関する観察、実験などを行い、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして科学的に探究している。			10	19・20	
⑪	第5編 第10章 生態系のしくみと人間生活の関わり 第1節(教科書p.322～351)	【知識・技能】 ①個体群間の相互作用に関する資料に基づいて、生物群集が維持される仕組みや個体群間の関係性を見いだして理解している。 【思考・判断・表現】 ①個体群間の相互作用に関する観察、実験などを行い、個体群が維持される仕組みや個体間の関係性を見いだして科学的に探究している。			11	21・22	
⑫	第5編 第10章 生態系のしくみと人間生活の関わり 第2節 第3節(教科書p.352～381)	【知識・技能】 ①生態系の物質生産と物質循環に関する資料に基づいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連付けて理解している。 ②生態系と人間生活に関する資料に基づいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見いだして理解している。 【思考・判断・表現】 ①草本植物群集に関する観察、実験などを行い、陸上条件による草本植物の生産構造の違いについて科学的に探究している。			12	23・24	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けた後、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科			地学基礎		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
8	4	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			書 名				
教科書	東京書籍	地基701	地学基礎				
副教材等	－	－	－				
学習目標							
地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上(1)から(3)を踏まえ、生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指す。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
1編 私たちの大地(P14～P49) 2編 私たちの空と海(P52～P73)				4編 私たちの地球の歴史(P98～P127) 5編 地球に生きる私たち(P130～P147)			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	1編 私たちの大地 1章 大地とその動き 2章 火山活動と地震 (P14～P49)	【知識・技能】 ①地球内部の層構造とその状態を理解している。 ②プレートの分布と運動について理解しているとともに、大地形の形成と地質構造をプレートの運動と関連付けて理解している。 ③火山活動や地震に関する資料に基づいて、火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①地球の形や大きさに関する観察、実験などを行い、地球の形の特徴と大きさを見いだして科学的に探究している。			1	1・2	○
②	2編 私たちの空と海 1章 地球の熱収支 2章 大気と海水の運動 (P52～P73)	【知識・技能】 ①気圧や気温の鉛直方向の変化などについての資料に基づいて、大気の特徴を見いだして理解しているとともに、太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量が釣り合っていることを理解している。 ②大気と海水の運動に関する資料に基づいて、大気と海洋の大循環について理解しているとともに、緯度により太陽放射の受熱量が異なることなどから、地球規模で熱が輸送されていることを見いだして理解している。 【思考・判断・表現】 ①地球の熱収支に関する観察、実験などを行い、高度による地球大気気圧と温度変化の関係及び緯度による太陽放射エネルギーの違いについて科学的に探究している。			2	3・4	○
③	3編 私たちの宇宙の誕生 1章 宇宙の構造と進化 (P76～P95)	【知識・技能】 ①宇宙の誕生、太陽系の誕生と生命を生み出す条件を備えた地球の特徴を理解している。 【思考・表現】 ①惑星形成に関する観察などを行い、太陽系の形成過程や惑星ごとの特徴について科学的に探究している。			3	5・6	
④	4編 私たちの地球の歴史 1章 地層と化石の観察 2章 古生物の変遷と地球環境 (P98～P127)	【知識・技能】 ①地球環境の変化に関する資料に基づいて、大気の変化と生命活動の相互の関わりを見いだして理解している。 【思考・判断・表現】 ①地層や化石に関する観察などを行い、地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを科学的に探究している。			4	7・8	○
⑤	5編 地球に生きる私たち 1章 日本の自然の恵みと防災 (P130～P147)	【知識・技能】 ①日本の自然環境を理解し、それらがもたらす恵恩や災害など自然環境と人間生活との関わりについて認識している。 【思考・判断・表現】 ①自然環境の観察などを行い、得られる恵恩や災害などの関係について科学的に探究している。			5	9・10	○
⑥	終1章 地球環境の考え方 終2章 自然環境の変動 終3章 これからの地球環境 (P148～P169)	【知識・技能】 ①地球規模の自然環境に関する資料に基づいて、地球環境の変化を見いだしてその仕組みを理解しているとともに、それらの現象と人間生活との関わりについて認識している。 【思考・判断・表現】 ①地球環境に関する観察、実験などを行い、人間活動と環境変動についての関係を科学的に探究している。			6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育			体育Ⅰ		2	2	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
10	6	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			発行者の番号・略称 または出版社名		教科書の記号・番号		
教科書			50・大修館		保体701		
副教材等			－		－		
学 習 目 標							
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習課程を通して、体と心を一體として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成する。 (1)スポーツの始まりと変遷や、現代のスポーツが社会や環境にもたらす大きな影響を理解し、スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から自己の関わり方を考え深めることができる。【知識・技能】 (2)スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】 (3)スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解することや、課題を発見するために意見交換などの学習に自ら進んで取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
1単元 スポーツの発祥と発展(教科書P136～147) 1. スポーツの始まりと変遷 2. 文化としてのスポーツ 3. オリンピックとパラリンピックの意義				1単元 スポーツの発祥と発展(教科書P148～156) 4. スポーツが経済に及ぼす効果 5. スポーツの高潔さとドーピング 6. スポーツと環境			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲		単元目標		報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	スポーツの発祥と発展①		【知識・技能】 ①スポーツの始まりや変遷について理解し、スポーツの発展が人々に恩恵をもたらしている一方で、様々な課題も生じていることを理解することができる。 ②近代オリンピックの成り立ちについて理解し、オリンピックとパラリンピックの価値や意義、理念について理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①運動と比較し文化としてのスポーツの特徴と多様なかわり方によるスポーツの変容について説明することができる。		1	1・2	○
②	スポーツの発祥と発展②		【知識・技能】 ①スポーツが経済活動でどのように重要な役割を担っているか、スポーツにかかわる広範な業種から構成されるスポーツ産業による効果、スポーツイベント等による経済波及効果が経済活動に大きな影響を及ぼしていることを理解することができる。 ②スポーツにかかわる人々の増加に伴う、環境や社会に対する影響について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①スポーツの持つ価値、スポーツが環境や社会にもたらす影響について習得した知識を活用し、スポーツの高潔さを脅かすドーピング等の課題やその要因について理解し、なぜドーピングがスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明することができる。 ②スポーツが環境や社会に及ぼす影響について習得した知識を活用し、スポーツが持続可能な発展につながるよりよい解決策を思考し判断することで説明することができる。		2	3・4	○
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育			体育Ⅱ		2	2	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
10	6	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載				書 名			
教科書	大修館書店	保体701	現代高等保健体育				
副教材等	－	－	－				
学 習 目 標							
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しもうととしている。【主体的に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
2単元 運動・スポーツの学び方 1.スポーツにおける技能と体力(P158～159) 2.スポーツにおける技術と戦術(P160～161) 3.技能の上達過程と練習(P164～165)				2単元 運動・スポーツの学び方 4.効果的な動きのメカニズム(P168～169) 5.体カトレーニング(P172～175) 6.運動やスポーツでの安全の確保(P176～177)			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	2単元 運動・スポーツの学び方 1.スポーツにおける技能と体力(P158～159) 2.スポーツにおける技術と戦術(P160～161) 3.技能の上達過程と練習(P164～165)	【知識・技能】 ①運動・スポーツにおける技能について型や上達課程にみる段階や停滞現象について理解できる。 ②戦術・作戦・戦略や効果的な練習方法について理解できる。 【思考・判断・表現】 ①技能の型の違いやそれぞれの練習のしかた、どのようなステップを経て上達するか説明できる。 ②技能や体力を高めるときに気を付けるべき点や、技能が上達するとどのような特徴が見られるかをあげることができる。			1	1・2	○
②	2単元 運動・スポーツの学び方 4.効果的な動きのメカニズム(P168～169) 5.体カトレーニング(P172～175) 6.運動やスポーツでの安全の確保(P176～177)	【知識・技能】 ①動きのメカニズムやさまざまなトレーニングの方法について理解できる。 ②運動・スポーツで起こるけがや事故とその予防について理解できる。 【思考・判断・表現】 ①体の動きについてや目的に応じたトレーニングの方法について説明できる。 ②スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、発生原因や予防方法を説明できる。			2	3・4	○
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育			体育Ⅲ		3	3	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
15	9	0	6				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名			
教科書	大修館書店	保体701	現代高等保健体育				
副教材等	－	－	－				
学 習 目 標							
運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 (1)生涯にわたって健康で豊かな生活を送るために、スポーツと継続的に関わり、ライフステージやライフスタイルに応じてスポーツライフを設計する知識を身に付けている。【知識・技能】 (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けようとしている。 【思考・判断・表現】 (3)健康・安全を確保して、運動における競争や協働の経験を通して、ライフスタイルに応じたスポーツを生涯にわたって継続して親しもうとしている。【主体的に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
【運動やスポーツでの安全の確保】（教科書176～177ページ） 【生涯スポーツの見方・考え方】（教科書182～183ページ） 【ライフスタイルに応じたスポーツ】（教科書186～187ページ）				【スポーツを推進する取り組み】（教科書190～191ページ） 【豊かなスポーツライフの創造】（教科書194～195ページ） 【体のつくりと働き】（教科書口絵1～4ページ）(教科書170)			
【添削指導（報告課題）】							
	学習範囲	単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	【運動やスポーツでの安全の確保】 （教科書176～177ページ） 【生涯スポーツの見方・考え方】 （教科書182～183ページ） 【ライフスタイルに応じたスポーツ】 （教科書186～187ページ）	【知識・技能】 ①スポーツ活動中に起こるけがや事故について知識を深めることができる。 ②社会の変化に伴ってスポーツの役割がどのように変化したのか理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①スポーツ障害やけが、事故の予防法を身に付け、説明することができる。 ②ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明することができる。			1	1・2	○
②	【スポーツを推進する取り組み】 （教科書190～191ページ） 【豊かなスポーツライフの創造】 （教科書194～195ページ）	【知識・技能】 ①オリンピックを通して、スポーツの施策や地域スポーツへの影響を考え知識を深めることができる。 ②これまでとこれからのスポーツライフの違いを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①身近な地域におけるスポーツ推進の取り組みについて例をあげることができる。 ②豊かなスポーツライフを創造していくための課題について取り上げ、個々や社会全体で何が求められるか発表することができる。			2	3・4	○
③	【体のつくりと働き】 （教科書口絵1～4ページ） （教科書170）	【知識・技能】 ①体のつくりと働きについて知識を深めることができる。 ②運動と脳のかかわりを理解し、知識を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①体の動きに対して脳のどの部位が関わっているか例をあげて、実践することができる。			3	5・6	○
学 習 方 法							
【添削指導（報告課題）】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴（チェックテストを含む）」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導（スクーリング）】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
保健体育			保健 I		1	3	2	
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
1	0	0	1					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			書 名					
教科書	大修館	保体701	現代高等保健体育					
副教材等	－	－	－					
学 習 目 標								
保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えようとしている。【思考・判断・表現】 (3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
1単元 現代社会と健康(教科書P6～35) 1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復 6. 運動と健康 7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康				1単元 現代社会と健康(教科書P36～58) 12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復 15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防 18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり 2単元 安全な社会生活(教科書P60～74) 1. 事故の現状と発生要因 2. 安全な社会の形成 3. 交通における安全 4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当 6. 心肺蘇生法				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	現代社会と健康①	【知識・技能】 ①国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解することができる。 ②がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧、糖尿病などの生活習慣病のリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であると理解している。 ③健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解することができる。 ②生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用して考えることができる。 ③喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策面から分析することができる。			1	1・2	○	
②	現代社会と健康②	【知識・技能】 ①感染症は時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解できるようにする。 ②精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物学的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることを理解している。 【思考・判断・表現】 ①精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気づくために必要な個人の取組や社会的な対策を整理することができる。			2	3・4		○
③	安全な社会生活	【知識・技能】 ①事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していることや、事故の発生には周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることを理解できる。 ②適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できる。 【思考・判断・表現】 ①交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価することができる。 ②応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用することができる。			3	5・6		○
学 習 方 法								
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								
評 価 方 法								
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。								

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育			保健Ⅱ		1	3	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
1	0	0	1				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			発行者の番号・略称 または出版社名		教科書の記号・番号		書 名
教科書	大修館書店	保体・701		現代高等保健体育			
副教材等	－	－		－			
学習目標							
保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)生涯を通して自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊で活力ある生活を営もうとしている。【主体的に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
3単元 生涯を通じる健康 1.ライフステージと健康(P76～77) 2.思春期と健康(P78～79) 3.性意識と性行動の選択(P80～81) 4.妊娠・出産と健康(P82～83) 5.避妊法と人工妊娠中絶(P84～85) 6.結婚生活と健康(P88～89) 7.中高年期と健康(P90～91)				3単元 生涯を通じる健康 8.働くことと健康(P92～93) 9.労働災害と健康(P94～95) 10.健康的な職業生活(P96～97) 4単元 健康を支える環境づくり 1.大気汚染と健康(P100～101) 2.水質汚濁・土壌汚染と健康(P102～103) 3.環境と健康にかかわる対策(P104～105) 4.ごみの処理と上下水道の整備(P106～107) 4単元 健康を支える環境づくり 5.食品の安全性(P110～111) 6.食品衛生にかかわる活動(P112～113) 7.保健サービスとその活用(P116～117) 8.医療サービスとその活用(P118～119) 9.医薬品の制度とその活用(P120～121) 10.さまざまな保健活動や社会対策(P124～125) 11.健康に関する環境づくりと社会参加(P126～127)			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲		単元目標		報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	3単元 生涯を通じる健康 1.ライフステージと健康(P76～77) 2.思春期と健康(P78～79) 3.性意識と性行動の選択(P80～81) 4.妊娠・出産と健康(P82～83) 5.避妊法と人工妊娠中絶(P84～85) 6.結婚生活と健康(P88～89) 7.中高年期と健康(P90～91)		【知識・技能】 ①思春期における体の変化や家族計画の意義と適切な避妊法について理解できる。 ②心身の発達と結婚生活、また加齢の変化について理解できる。 【思考・判断・表現】 ①性行動の選択についての例や妊娠出産に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。 ②人工妊娠中絶が及ぼす影響について説明できる。		1	1・2	○
②	3単元 生涯を通じる健康 8.働くことと健康(P92～93) 9.労働災害と健康(P94～95) 10.健康的な職業生活(P96～97) 4単元 健康を支える環境づくり 1.大気汚染と健康(P100～101) 2.水質汚濁・土壌汚染と健康(P102～103) 3.環境と健康にかかわる対策(P104～105) 4.ごみの処理と上下水道の整備(P106～107)		【知識・技能】 ①働くことの意義や労働災害について理解できる。 ②大気汚染・水質汚濁・土壌汚染の原因と健康影響について理解できる。 【思考・判断・表現】 ①労働災害を防止するために必要なことや余暇の意義について説明できる。 ②複合的な環境汚染の発生のしくみやごみの処理の現状と課題について説明できる。		2	3・4	○
③	4単元 健康を支える環境づくり 5.食品の安全性(P110～111) 6.食品衛生にかかわる活動(P112～113) 7.保健サービスとその活用(P116～117) 8.医療サービスとその活用(P118～119) 9.医薬品の制度とその活用(P120～121) 10.さまざまな保健活動や社会対策(P124～125) 11.健康に関する環境づくりと社会参加(P126～127)		【知識・技能】 ①食品の安全性や製造者の役割について理解できる。 ②保健行政の役割や医療保険の仕組みについて理解できる。 【思考・判断・表現】 ①食品の安全性に関する今日的課題について説明できる。 ②保健サービスの活用の例や行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。		3	5・6	○
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
芸術			音楽Ⅰ		2	6	2	
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数							(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)						
8	4	0	4					
※検定教科書は、発行者の番号・題称、教科書の記号・番号を記載			書 名					
教科書	教育出版	音Ⅰ・701	音楽Ⅰ Tutti +					
副教材等	－	－	－					
学習目標								
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 〔1〕曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。【知識・技能】 〔2〕自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。【思考力・判断力・表現力】 〔3〕主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
①楽典(p.46,146,149) ②西洋音楽史 ③日本歌曲を歌おう ④西洋音楽の源流を耳でたどろう ⑤ドイツ歌曲の魅力				①楽典(p.146-148) ②アイルランド民謡に親しもう ③日本音楽史 ④私たちの郷土の音楽 ⑤民謡のいろいろ「会津磐梯山」				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	①楽典(p.46) ②楽典(p.146) ③西洋音楽史(p.108～113) ④日本歌曲を歌おう (p.14～15, 149(一部楽典))	【知識・技能】 ①曲想と音楽の構造や歌詞との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように旋律をつくるかについて思いや意図をもつことができる。			1	1・2	○	
②	①楽典(p.149) ②西洋音楽の源流を耳でたどろう (p.114～117) ③ドイツ歌曲の魅力(p.28～29)	【知識・技能】 ①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①音色、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にととの音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。			2	3・4	○	
③	①声という大切な楽器(p.12) ②世界の声の音楽、楽器の音楽 (p.106～107) ③イタリヤの民謡や歌曲 (p.22～23、 p.147, 149(一部楽典))	【知識・技能】 ①言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①音色、リズム、速度、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもつことができる。			3	5・6		
④	①楽典(p.146～148) ②アイルランド民謡に親しもう (p.38, 148(一部楽典))	【知識・技能】 ①言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。			4	7・8	○	
⑤	①私たちの郷土の音楽(p.46～47) ②日本音楽史(p.96～99) ③民謡のいろいろ「会津磐梯山」 (p.47, 49)	【知識・技能】 ①曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類と特徴について理解している。 【思考・判断・表現】 ①音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴き、自己のイメージをもつてどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。			5	9・10	○	
⑥	①ピアノの歩みとその音楽 (p.118～119) ②A.ヴィヴァルディとバロック音楽 (p.83, 110ページ, 149、 p.152(一部楽典)) ③ベートーヴェン最後の交響曲 (p.124～125, 148(一部楽典))	【知識・技能】 ①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠や音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。			6	11・12		
学 習 方 法								
【添削指導(報告課題)】 1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								
評 価 方 法								
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。								

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
芸術			美術Ⅰ		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
8	4	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			書 名				
教科書	日本文芸出版	美Ⅰ702	高校生の美術1				
副教材等	-	-	-				
学 習 目 標							
美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。【知識・技能】 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。【思考・判断・表現】 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしている。【主体的に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
報告課題1・2回目 (絵画・彫刻①、②)				報告課題4・5回目 (デザイン①、②)			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	絵画・彫刻 ①	【知識・技能】 ①意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 【思考・判断・表現】 ①自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成することができる。 ②表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。 ③表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すことができる。			1	1・2	○
②	絵画・彫刻 ②	【知識・技能】 ①意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 【思考・判断・表現】 ①自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成することができる。 ②表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。 ③表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すことができる。			2	3・4	○
③	絵画・彫刻 ③	【知識・技能】 ①意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 【思考・判断・表現】 ①自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成することができる。 ②表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。 ③表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すことができる。			3	5・6	
④	デザイン ①	【知識・技能】 ①意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 【思考・判断・表現】 ①目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成することができる。 ②デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。 ③表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すことができる。			4	7・8	○
⑤	デザイン ②	【知識・技能】 ①意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 【思考・判断・表現】 ①目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成することができる。 ②デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。 ③表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すことができる。			5	9・10	○
⑥	映像メディア	【知識・技能】 ①意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かしている。 【思考・判断・表現】 ①感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かし主題を生成することができる。 ②色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。 ③表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表すことができる。			6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
芸術			書道Ⅰ		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
8	4	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載				書 名			
教科書	2東書	書Ⅰ701	書道Ⅰ				
副教材等	－	－	－				
学習目標							
書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の 文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力 の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書 の 伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができる。【思考・判断・表現】 (3)主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むと もに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
1 書写から書道へ 2 漢字の書 漢字の成立と変遷 古典に基づく学習 楷書				4 草書 隷書 篆書 5 仮名の書			
【添削指導（報告課題）】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	書写から書道へ	【知識・技能】 ①用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ②目的や用途に即した効果的な表現、楷書と仮名や行書と仮名の調和した線質による表現を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①中学校書写で学んだ漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した効果的な表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。			1	1・2	○
②	漢字の書 漢字の成立と変遷 古典に基づく学習 楷書	【知識・技能】 ①日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 ②楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 ②楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。			2	3・4	○
③	行書	【知識・技能】 ①行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ②線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ③行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。 ②行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。			3	5・6	
④	草書 隷書 篆書	【知識・技能】 ①草書・隷書・篆書の各古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ②線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 【思考・判断・表現】 ①草書・隷書・篆書の各古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。			4	7・8	○
⑤	仮名の書	【知識・技能】 ①日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立について理解している。 ②用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①仮名の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ②仮名の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。			5	9・10	○
⑥	漢字仮名交じりの書 篆刻・刻字	【知識・技能】 ①日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立について理解している。 ②用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。			6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導（報告課題）】 1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 名回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導（スクーリング）】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
外国語			英語コミュニケーションⅠ			3	9	2
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
12	7	0	5					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記録			発行者の番号・略称 または出版社名		教科書の記号・番号		書 名	
教科書	東京書籍	C I 701	All Aboard! English CommunicationⅠ					
副教材等	－	－	－					
学習目標								
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、自分の考えやチームの意見を話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。 (1)必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。【思考・判断・表現】 (2)必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。【思考・判断・表現】 (3)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしようすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】 (4)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。【知識・技能】 (5)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。【知識・技能】 以上を踏まえ、「基礎級・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験					学年末試験			
報告課題1・2回目 (Warm-Up ①②③～Lesson 3)					報告課題5・6・7回目 (Lesson 6～Lesson 8)			
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲		単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	Warm-Up ①②③ Pre-Lesson 1・2 Lesson 1		【知識・技能】 Warm Up①②③:教室で使う表現の理解・辞書の使い方が理解できる。 【思考・判断・表現】 Pre-Lesson 1・2:自分の名前・性格・日常の行動などを相手に伝えることができる。 (be動詞一般動詞) Lesson 1:自分の考えや好み、その理由などを伝える(過去形)ことができる。			1	1・2	○
②	Lesson 2 Lesson 3		【思考・判断・表現】 Lesson2:好きな動物について、考えや好み、理由などを伝え合う(進行形)ことができる。 Lesson3:自分ができること・できないことについて情報や考えを伝え合う(助動詞)ことができる。			2	3・4	○
③	Lesson 4		【思考・判断・表現】 Lesson4:自分が行ってみたい場所やしたいことについて情報や考え、気持ちを伝え合う(to不定詞)ことができる。			3	5・6	
④	Lesson 5 Reading 1		【知識・技能】 Lesson5:将来の夢や先週末に楽しんだことについて、考えや気持ち、情報を伝え合う(動名詞)ことができる。 Reading1:英語で書かれたShort Storiesを読み、それぞれの場面の心情を読み取ることができる。			4	7・8	
⑤	Lesson 6		【思考・判断・表現】 Lesson6:好きな絵の紹介とその理由について情報や考え、気持ちを話して伝え合う(受け身)ことができる。			5	9・10	○
⑥	Lesson 7		【思考・判断・表現】 Lesson7:アンネ・フランクについて学び、関心のある人物について自分で調べた事柄を用いて、考えなどを伝え合う(比較表現)ことができる。			6	11・12	○
⑦	Lesson 8		【思考・判断・表現】 Lesson8:ロボットカフェについて学び、ロボットについて自分で調べた事柄を用いて、人の生活を豊かにするロボットのアイデアを提案する(現在完了形)ことができる。			7	13・14	○
⑧	Lesson 9		【思考・判断・表現】 Lesson9:プラスチックごみによる環境汚染の問題について学び、調べた事柄を整理・理解する。自分で調べた事柄を用いて自分たちにできることを伝え合う(名詞を後ろから説明する分詞)ことができる。			8	15・16	
⑨	Lesson 10 Reading 2		【知識・技能】 Reading2:The Wizard of Ozの内容を読み取り、場面や登場人物の心情を読み取ることができる。 【思考・判断・表現】 Lesson10:海外の文化や社会を理解する手段について自分で調べた事柄を用いて考えや情報を話して伝え合う(関係代名詞who, which)ことができる。			9	17・18	
学 習 方 法								
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。								
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								
評 価 方 法								
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。								

【 2025年度 】 年間指導計画①

教科等			科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
外国語			英語コミュニケーションⅡ		4	12	2
面接指導							
規定回数(1)		メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
		Web(2)	放送視聴(3)				
16	9	0	7				
※検定教科書は、発行者の番号・題名・発行年を記し、検定教科書の記号・番号を記載					書名		
教科書	東京書籍	CII 701	All Aboard! English Communication II				
副教材等	—	—					
学習目標							
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつ結び行った統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合うことができることを目指す。 (1)必要な情報を聞き取り、話の脈理や話すまじの意図を把握することができる。【思考・判断・表現】 (2)必要な情報を聞き取り、文章の脈理や書き手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】 (3)日常的な話題について、使用する語句や文、事柄の事象などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して詳しく話して伝えることができる。【主体的に学習に取り組む態度】 (4)日常的な話題について、使用する語句や文、事柄の事象などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して詳しく話して伝えることができる。【知識・技能】 (5)日常的な話題について、使用する語句や文、事柄の事象などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して複数の文脈から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。【知識・技能】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
一学期末試験				学年末試験			
Pre-Lesson ～ Lesson3 (P8～P41)				Lesson6 ～ Lesson8 (P78～P119)			
【添削指導(報告課題)】							
学習範囲		単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	(a.8～19) Pre-Lesson My Plans for This Year 今年やってみたいこと A Colorful Island アール島のイースト	【知識・技能】 ①a-not否定や動詞のwillなどを用いた文の形・意味を理解している。 ②今年やってみたいことなど、to不定詞や動詞のwillなどを用いて、相手に伝える事柄を身に着けている。 ③関係代名詞whichの理解をもとに、自分の意見について、聞いた人から聞いたことを活用しながら、自分の調べた事柄を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ④今年やってみたいことなどを整理して、相手に理解しやすいように話している。 ⑤自分の意見や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身に付けている。			1	1・2	○
②	(P20～P29) Lesson 2 With the Beatles ビートルズのイースト	【知識・技能】 ①比較級(more/the most)を用いた文の形・意味を理解している。また、世代を超えて人々のある音楽ジャンルについて学んだり、好きな人物について学んだり、音楽を整理・理解している。 ②比較級(more/the most)の理解をもとに、世代を超えて人々のある音楽ジャンルについて学んだり、好きな人物について自分調べた事柄を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ③世代を超えて人々のある音楽ジャンルについて、聞いた人から聞いたことを活用しながら、好きな人物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合っている。			2	3・4	○
③	(P30～P41) Lesson 3 Wild Man ワイルドマンの世界	【知識・技能】 ①itを用いた文(It is (for) to → It is (that) →)の形・意味を理解している。また、ヨーロッパの国々に登場するワイルドマンについて学んだり、音楽を整理・理解している。 ②itを用いた文(It is (for) to → It is (that) →)の理解をもとに、ヨーロッパの国々の歌に登場するワイルドマンについて学んだり、身近な行動について自分調べた事柄を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ③ヨーロッパの国々の歌に登場するワイルドマンに関して調べた文脈について、聞いた人から聞いたことを活用しながら、身近な行動について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合っている。			3	5・6	○
④	(P42～P55) Lesson 4 Little Hero ハロルドの心	【知識・技能】 ①関係代名詞の形・意味を理解している。また、ハロルドやハロルドを主人公とした物語について学んだり、好きな物語について調べた事柄を整理・理解している。 ②関係代名詞の理解をもとに、ハロルドやハロルドを主人公とした物語について学んだり、自分調べた事柄を用いて、考えや理由などを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ③ハロルドが抱えている苦悩とハロルドを主人公にした物語の文脈について、聞いた人から聞いたことを活用しながら、好きな物語について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや理由などを話したり書いて伝え合っている。			4	7・8	
⑤	(P56～P69) Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語	【知識・技能】 ①a-not否定を含む表現を用いた文の形・意味を理解している。また、歌舞伎と関係について学んだり、日本の伝統文化について調べた事柄を整理・理解している。 ②a-not否定を含む表現を用いた文の形・意味を理解している。また、日本の伝統文化について自分調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ③歌舞伎と関係について調べた文脈に関して調べた文脈について、聞いた人から聞いたことを活用しながら、日本の伝統文化について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合っている。			5	9・10	
⑥	(P70～P77) Lesson 7 Mujina ムジナ	【知識・技能】 ①語彙で書かれたMujinaの内容を理解している。 ②語彙で書かれたMujinaの内容を理解している。また、Mujinaの物語について学んだり、Mujinaの物語について自分調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ③語彙で書かれたMujinaの内容に関して調べた文脈について、聞いた人から聞いたことを活用しながら、Mujinaの物語について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合っている。			6	11・12	
⑦	(a.78～91) Lesson 6 Seeds for Future Generations 伝統的農業を未来につなぐ	【知識・技能】 ①関係代名詞の形・意味を理解している。また、伝統的農業について学んだり、伝統的農業の歴史について調べた事柄を整理・理解している。 ②関係代名詞の理解をもとに、伝統的農業について学んだり、伝統的農業の歴史について自分調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ③伝統的農業に関して調べた文脈について、聞いた人から聞いたことを活用しながら、伝統的農業の歴史について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや理由などを話したり書いて伝え合っている。			7	13・14	○
⑧	(a.92～105) Lesson 7 Over the Wall 壁を越えて世界をつなぐ	【知識・技能】 ①関係代名詞where, whenを用いた文の形・意味を理解している。また、世界中で壁を越えて活動について学んだり、外国の人々と交流する方法について調べた事柄を整理・理解している。 ②関係代名詞where, whenの理解をもとに、世界中で壁を越えて活動について学んだり、外国の人々と交流する方法について自分調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ③世界中で壁を越えて活動について調べた文脈について、聞いた人から聞いたことを活用しながら、外国の人々と交流する方法について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合っている。			8	15・16	○
⑨	(a.106～119) Lesson 8 Inspiration from Nature 自然のデザインに学ぶ	【知識・技能】 ①関係代名詞の形・意味を理解している。また、自然のデザインについて学んだり、自然のデザインをヒントに開発された製品について調べた事柄を整理・理解している。 ②関係代名詞の理解をもとに、自然のデザインについて学んだり、自然のデザインをヒントに開発された製品について自分調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ③自然のデザインをヒントにした開発された製品について、聞いた人から聞いたことを活用しながら、自然のデザインをヒントに開発された製品について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合っている。			9	17・18	○
⑩	(a.120～133) Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate チョコレートと社会問題	【知識・技能】 ①関係代名詞の形・意味を理解している。また、チョコレートと社会問題とその解決策について学んだり、その問題について調べた事柄を整理・理解している。 ②関係代名詞の理解をもとに、チョコレートと社会問題とその解決策について学んだり、その問題について自分調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ③チョコレートと社会問題とその解決策について調べた文脈について、聞いた人から聞いたことを活用しながら、チョコレートと社会問題とその解決策について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合っている。			10	19・20	
⑪	(a.134～147) Lesson 10 Fighting Angel ファイトエンジェル	【知識・技能】 ①関係代名詞の形・意味を理解している。また、ファイトエンジェルの生涯について学んだり、人々を助ける職業について調べた事柄を整理・理解している。 ②関係代名詞の理解をもとに、ファイトエンジェルの生涯について学んだり、人々を助ける職業について自分調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ③ファイトエンジェルの生涯について調べた文脈について、聞いた人から聞いたことを活用しながら、人々を助ける職業について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合っている。			11	21・22	
⑫	(a.148～155) Lesson 11 Reading 2 Bear's Pie ベアのパイ	【知識・技能】 ①関係代名詞の形・意味を理解している。また、ベアのパイの物語について学んだり、ベアのパイの物語について自分調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 ②関係代名詞の理解をもとに、ベアのパイの物語について学んだり、ベアのパイの物語について自分調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ③ベアのパイの物語に関して調べた文脈について、聞いた人から聞いたことを活用しながら、ベアのパイの物語について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いて伝え合っている。			12	23・24	
学習方法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 添削指導(添削指導)後、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

[illegible]

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		
外国語			論理・表現Ⅰ		
			2	6	2
面接指導					
メディアによる減回回数		(1)-(2)-(3)			
規定回数(1)	Web(2)	放送視聴(3)			
8	4	0	4		
※規定教科書は、発行元の番号・題名・版権、教科書の記号・番号を記載 発行元の番号・題名または出版元名 教科書の記号・番号			書 名		
教科書	東京書籍	論 I 701	NEW FAVORITE English Logic and Expression I		
副教材等	-	-	-		
学習目標					
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語に関する関心と意欲を高め、話すこと、読むこと等の言語活動及びこれらを結び付けた総合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解し適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。 ① 英語の音声や文字を理解するとともに、それらと高度な思考力・判断力を要する課題を解決し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができる。【知識・技能】 ② 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的・場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現したり、伝えあったりすることができる。【思考・判断・表現】 ③ 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用する語彙や文法、やり取りの具体的手段の方向が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを送って伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりしようとしている。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりしようとしている。【読解・読者の立場から読みとく】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。					
定期試験範囲					
一学期末試験			学年末試験		
報告課題1-2回目(Unit1 Lesson1～Lesson6)			報告課題4-5回目(Unit1 Lesson10～12, Unit2 Lesson1～Lesson4)		
【添削指導（報告課題）】					
学習範囲			単元目標		
①	Unit1 Lesson1 初めての食事 Lesson2 道に迷う Lesson3 人物紹介	Lesson1【知識・技能】 ① 食事に関する語彙や重要表現を理解することができる。 ② 未来表現、計算名詞・可算名詞、受動態について、正しく理解している。 Lesson1【思考・判断・表現】 ① 食事を要める、勧める、断ることができる。 Lesson2【知識・技能】 ① 道案内や場所・方向に関する語彙や重要表現を理解することができる。 Lesson2【思考・判断・表現】 ① 道を尋ねる際に尋ねる、道を導くように正しく伝えることができる。 ② 提案したり、提案に応えることができる。 Lesson3【知識・技能】 ① 人の性格や活動、趣味に関する語彙や誰かを紹介するときの重要表現を理解することができる。 ② 現在完了形・過去形の使い分け不定詞と動名詞の違いについて、正しく理解している。 Lesson3【思考・判断・表現】 ① 身近な人を誰かに紹介することができる。	1	1-2	○
②	Lesson4 体調が悪い Lesson5 買い物 Lesson6 行ってみない場所	Lesson4【知識・技能】 ① 病気や症状、体の部位に関する語彙や、それを伝えるための重要表現を理解することができる。 ② 冠詞、人称代名詞、shouldとhad betterについて、正しく理解している。 Lesson4【思考・判断・表現】 ① 体調が悪いことを伝えたり、相手の体調やアレルギーについて尋ねる、相手に指示や助言をすることができる。 Lesson5【知識・技能】 ① スーパーや食料品店で使用される語彙、食材に関する語彙や買い物の重要表現の理解することができる。 ② 現在形現在進行形、現在完了形と過去形について、それぞれ違いを正しく理解している。 Lesson5【思考・判断・表現】 ① 場所の説明、言い方の質問・説明、描写、相づちなどを適切に表現することができる。 Lesson6【知識・技能】 ① 理由に関する語彙や重要表現を理解することができる。 ② 後置修飾、to不定詞と動名詞について、正しく理解している。 Lesson6【思考・判断・表現】 ① 行きたくない場所の希望、理由を判別、その理由をサポートする方法を英語で表現することができる。	2	3-4	○
③	Lesson7 イベントに誘われる Lesson8 スクールカウンセラー相談 Lesson9 お気に入りの紹介	Lesson7【知識・技能】 ① イベント等に関する語彙や、誘ったり断る際の重要表現を理解することができる。 ② 未来表現について、正しく理解している。 Lesson7【思考・判断・表現】 ① イベントや自分などに合う、誘いを承諾する、誘いを断る、断る理由を述べる、返事を保留することができる。 Lesson8【知識・技能】 ① 学校に関する語彙や、それに伴う重要表現を理解することができる。 Lesson8【思考・判断・表現】 ① 手伝いを申し出る/肩になっている人に声をかける、助言や提案をする、お礼や感謝を伝えることができる。 Lesson9【知識・技能】 ① 英語や日本語に関する語彙や、感想を述べるとき重要な表現を理解することができる。 ② 前置修飾、後置修飾について正しく理解している。 Lesson9【思考・判断・表現】 ① ネットでの買い物や配達、お店での買い物物等買物金額に関する応用的な語彙や重要表現を理解することができる。 ② 映画や本のあらすじを要約したり、登場人物などを紹介することができる。	3	5-6	○
④	Lesson10 待ち合わせに遅刻 Lesson11 クラウドサービス Lesson12 英字新聞投稿	Lesson10【知識・技能】 ① 謝罪や許すなどの語彙、待ち合わせや約束に関する語彙や、それに関する重要表現を理解することができる。 ② 使役動詞、to不定詞と動名詞について、正しく理解している。 Lesson10【思考・判断・表現】 ① 相手に謝る、相手を許す、相手を励ますことができる。 Lesson11【知識・技能】 ① 政府やコミュニティに関する語彙や地域活動に関する重要表現を理解することができる。 ② 仮定法について正しく理解している。 Lesson11【思考・判断・表現】 ① 相手の意見に賛成・反対を述べたり、残念な気持ちを述べ、解決案を提案することができる。 Lesson12【知識・技能】 ① 学校の施設や持ち物、学校での行事や行事に関する語彙や重要表現を理解することができる。 Lesson12【思考・判断・表現】 ① 要説や主張を述べたり、その理由を述べることができる。	4	7-8	○
⑤	Unit2 Lesson1 クラスでディベート Lesson2 クラウドサービスの Lesson3 経験談のスピーチ Lesson4 遊びやスポーツを紹介	Lesson2【知識・技能】 ① 謝罪や話し合い、オンラインショッピング等に関する基礎的な語彙や重要表現を理解することができる。 ② 2nd, but, soなどの接続詞を正しく理解している。 Lesson2【思考・判断・表現】 ① 理由を述べた後、例を挙げる、ディベートの進行情形を、だからが発言した後一瞬付け加えることができる。 Lesson3【知識・技能】 ① 過去の出来事や方法について、正しく理解している。 Lesson3【思考・判断・表現】 ① 相手の意見を引用し、反駁する表現や、相手の意見を認めながらも反駁する表現を使うことができる。 Lesson4【知識・技能】 ① 持ち物や決まりに関する語彙、思いがけないできごとや気持ちを表す語彙や重要表現を理解することができる。 ② 後置修飾、受動態について、正しく理解している。 Lesson4【思考・判断・表現】 ① 過去のできごとを生々しく描写したり、物事が起こった背景を説明することができる。経験からアドバイスをすることができる。 Lesson4【知識・技能】 ① スポーツやゲームに関する語彙、重要表現を理解することができる。 ② 現在完了形・過去形の使い分けについて、正しく理解している。 Lesson4【思考・判断・表現】 ① ルールや手順を順序立てて説明したり、聞き手の知識に合わせて説明することができる。	5	9-10	○
⑥	Lesson5 日本のPR Lesson6 物語の両面を伝える Lesson7 読み手を納得させる Lesson8 読み手を感動させる	Lesson5【知識・技能】 ① 習慣や行動、個性、文化・伝統に関する語彙や重要表現を理解することができる。 ② and, but, soなどの接続詞を正しく理解している。 Lesson5【思考・判断・表現】 ① 事実と意見を反証して述べたり、文化や習慣について説明することができる。 Lesson6【知識・技能】 ① ペットの飼育や行動・性格、扱い方に関する語彙や重要表現を理解することができる。 ② 名詞と動詞を主語として、正しく理解している。 Lesson6【思考・判断・表現】 ① 理由と欠点を述べたり、説話を発露させる、説話を変えることができる。 Lesson7【知識・技能】 ① 映画画面に関する語彙や重要表現を理解することができる。 Lesson7【思考・判断・表現】 ① 動物の生態について理由を説明したり、理由を要約してまとめることができる。 Lesson8【知識・技能】 ① クラウドサービスやデジタル活動に関する語彙や重要表現を理解することができる。 Lesson8【思考・判断・表現】 ① 人の発言を直接引用したり、条件を出して意見を述べ、また説得することができる。	6	11-12	○
学 習 方 法					
【事前指導（報告課題）】 ① クラウドサービス（報告課題サポート）内の「講師情報（チェックテストを含む）」の学習を終えること。 ② 教科書を元ながら報告課題に取り組み、期間内に提出すること。 ③ 各回の前指導時または、疑問点などがあれば、質問メールや個別指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【事前指導（スクーリング）】 ① 自己学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会をとらえて、予習・復習に取り組むこと。 ② 授業からの直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 ① 実施時期：前期1回、後期1回実施する。 ② 出題範囲：報告課題の内容を中心とする。					
評 価 方 法					
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」（35%）、「思考・判断・表現」（35%）、「主体的に学習に取り組む態度」（30%）で評価する。					

【 2025年度 】 年間指導計画①

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
外国語		論理・表現Ⅱ		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる学習回数 Web(2)		放送授業(3)		(1)-(2)-(3)	
8	4	0	4			
※教科書・教科書は、発行者の番号・版数、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・版数 または記号・番号		教科書の記号・番号		書名
教科書	東京書籍	論Ⅱ701		NEW FAVORITE English Logic and ExpressionⅡ		
副教材等	—	—	—			
学習目標						
外国語によるコミュニケーションにおける発話・考え方を鑑み、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらと結び付けた総合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)必要な情報を聞き取り、設けられた状況・相手の意図を把握することができる。〔思考・判断・表現〕 (2)必要な情報を聞き取り、文章の構造や発話の意図を把握することができる。〔思考・判断・表現〕 (3)日常的な文脈について、使用する語句や文、対話の脈絡などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを詳しく話し伝え合うやり取りを続けることができる。〔主体的に学習に取り組む態度〕 (4)日常的文脈について、使用する語句や文、事象の脈絡などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを的確に伝えたり話し伝えたりすることができる。〔知識・技能〕 (5)日常的文脈について、使用する語句や文、事象の脈絡などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを的確に伝えたり話し伝えたりすることができる。〔知識・技能〕 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
Unit1 Lesson1 ~ Lesson8 (p8~39)			Unit2 Lesson1 ~ Lesson5 (p58~77)			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期/後期
①	(P8~P23) Unit1 Lesson1 友達に報告する Unit1 Lesson2 日本での初登校 Unit1 Lesson3 経験についてのスピーチ Unit1 Lesson4 ファンクター	Lesson1[知識・技能] ①訂正する、心配する、感謝するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、訂正する、心配する、感謝するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson1[思考・判断・表現] ①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、発話や発話などを訂正したり、自分や相手について心配したり、相手に感謝したりして、自分の知識や状況を説明し、適切な表現を用いて、相手に感謝したり、自分の考えや気持ちを詳しく表現している。 Lesson2[知識・技能] ①聞く、繰り返す、言い換えることの意味の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、聞く、繰り返す、言い換えることの意味の形・意味・用法を理解し、適切な表現を用いて、相手に感謝したり、自分の考えや気持ちを詳しく表現している。 Lesson2[思考・判断・表現] ①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、聞き手や聞き手との関係、理由を表現したり、発話や発話などを繰り返したり、言い換えることの意味の形・意味・用法を理解し、適切な表現を用いて、相手に感謝したり、自分の考えや気持ちを詳しく表現している。 Lesson3[知識・技能] ①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、聞き手の注意を引く、同意を求めるときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson3[思考・判断・表現] ①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、聞き手の注意を引く、同意を求めるときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson4[知識・技能] ①望む、要めるときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、望む、要めるときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson4[思考・判断・表現] ①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、聞き手の注意を求めるときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。		1	1-2	○
②	(P24~P39) Unit1 Lesson5 イベントに誘う Unit1 Lesson6 友達と遊びに行く Unit1 Lesson7 経験についてのスピーチ Unit1 Lesson8 友達と遊びに行く	Lesson5[知識・技能] ①誘う、説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、誘う、説明するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson5[思考・判断・表現] ①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、相手に感謝したり、自分の考えや気持ちを詳しく表現している。 Lesson6[知識・技能] ①依頼する、お願いするときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、依頼する、お願いするときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson6[思考・判断・表現] ①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、相手に感謝したり、自分の考えや気持ちを詳しく表現している。 Lesson7[知識・技能] ①依頼する、お願いするときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、依頼する、お願いするときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson7[思考・判断・表現] ①依頼する、お願いするときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、依頼する、お願いするときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson8[知識・技能] ①誘う、説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、誘う、説明するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson8[思考・判断・表現] ①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、聞き手を要約したり、文章をわかりやすくするために言い換えるたりして、自分の考えや気持ちを詳しく表現している。		2	3-4	○
③	(P40~P56) Unit1 Lesson9 タグラの発表 Unit1 Lesson11 友達とディスカッション Unit1 Lesson11 比較結果のプレゼンテーション Unit1 Lesson12 試した1職業	Lesson9[知識・技能] ①依頼する、提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、依頼する、提案するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson9[思考・判断・表現] ①依頼する、提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、依頼する、提案するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson10[知識・技能] ①依頼する、提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、依頼する、提案するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson10[思考・判断・表現] ①依頼する、提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、依頼する、提案するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson11[知識・技能] ①報告する、比較して説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、報告する、比較して説明するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson11[思考・判断・表現] ①報告する、比較して説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、報告する、比較して説明するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson12[知識・技能] ①報告する、理由を述べ、仮定するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、報告する、理由を述べ、仮定するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson12[思考・判断・表現] ①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、詳細を説明したり、理由を述べたり、さまざまな仮定をしたりして、自分の考えや気持ちを詳しく表現している。		3	5-6	○
④	(P58~P69) Unit2 Lesson1 クラスデベアト① Unit2 Lesson2 クラスデベアト② Unit2 Lesson3 クラスデベアト③	Lesson1[知識・技能] ①推論する、賛成・反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、推論する、賛成・反対するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson1[思考・判断・表現] ①推論する、賛成・反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、推論する、賛成・反対するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson2[知識・技能] ①推論する、賛成・反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、推論する、賛成・反対するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson2[思考・判断・表現] ①推論する、賛成・反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、推論する、賛成・反対するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson3[知識・技能] ①推論する、賛成・反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、推論する、賛成・反対するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson3[思考・判断・表現] ①推論する、賛成・反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、推論する、賛成・反対するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。		4	7-8	○
⑤	(P70~P77) Unit2 Lesson4 調査結果のプレゼンテーション Unit2 Lesson5 社会問題についてのスピーチ	Lesson4[知識・技能] ①報告する、望むことなどの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、報告する、望むことなどの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson4[思考・判断・表現] ①報告する、望むことなどの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、報告する、望むことなどの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson5[知識・技能] ①説明する、主張するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、説明する、主張するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson5[思考・判断・表現] ①説明する、主張するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、説明する、主張するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson6[知識・技能] ①説明する、主張するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、説明する、主張するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson6[思考・判断・表現] ①説明する、主張するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、説明する、主張するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。		5	9-10	○
⑥	(P78~P90) Unit2 Lesson6 仮定して推論する Unit2 Lesson7 比較して説明する Unit2 Lesson8 仮定して推論する	Lesson6[知識・技能] ①仮定する、推論するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、仮定する、推論するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson6[思考・判断・表現] ①仮定する、推論するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、仮定する、推論するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson7[知識・技能] ①仮定する、推論するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、仮定する、推論するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson7[思考・判断・表現] ①仮定する、推論するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、仮定する、推論するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson8[知識・技能] ①仮定する、推論するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、仮定する、推論するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson8[思考・判断・表現] ①仮定する、推論するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、仮定する、推論するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson9[知識・技能] ①仮定する、推論するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、仮定する、推論するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson9[思考・判断・表現] ①仮定する、推論するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、仮定する、推論するときの表現を適切に適用し、自分の考えや気持ちを詳しく表現する技能を身に付けている。		6	11-12	○
学習方法						
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャプション「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後、疑問点などあれば、質問メールで面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたら、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】 1 実施回数 前期1回、後期に1回実施する。 2 実施形態 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
外国語			論理・表現Ⅲ		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
8	4	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			書 名				
教科書	東京書籍	論Ⅲ701	NEW FAVORITE English Logic and Expression Ⅲ				
副教材等	—	—	—				
学習目標							
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】 (2)必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】 (3)日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 (4)日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。【知識・技能】 (5)日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。【知識・技能】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するためのに必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
英語でよりよく表現するには～Lesson3(P6～31)				Lesson6～Lesson9(P44～67)			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲		単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	英語でよりよく表現するには(P6～P13) Lesson1 食糧問題についてディスカッションする(P14～P19)		【知識・技能】 ①音の脱落や連続、同化という現象や書くときに注意すべきことを理解している。 ②議論する、提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ③音の脱落や連続、同化を正しく理解し、やり取りをよりよく行う技能、スピーチ・プレゼンテーションなどの心得や基本的な技能、書いたものを確認する技能を身に付けている。 ④相手の知識を用いて、議論する、提案するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを、相手を説得することができるよう、詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①場面や状況を理解し、適切なリズム(音の強さ・弱さ・スピード)を用いたり、推察を適切に行ったりすることで、情報や気持ちなどを表現することができる。 ②場面や状況を理解し、ある話題について、適切な表現を用いて、議論したり、提案したりして、自分の考えや気持ちなどを、相手を説得することができるよう、詳しく表現することができる。		1	1・2	○
②	Lesson2 メールで近況を伝える(P20～P25) Lesson3 学校新聞でアドバイスを(P26～P31)		【知識・技能】 ①助言する、行動を促すときや主張する、仮定するときの表現の表現の形・意味・用法を理解している。 ②相手の知識を用いて、助言する、行動を促すときの表現を適切に運用し、相手に対するアドバイスを表現する技能を身に付けている。 ③相手の知識を用いて、主張する、仮定するときの表現を適切に運用し、自分の考えや仮定・推測などを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、個人的なことに書いたり、気持ちを伝えたりして、自分の近況について相手に共感してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。 ②相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、助言したり、行動を促したりして、相手にアドバイスの有効性を納得してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。		2	3・4	○
③	Lesson4 宇宙についてスピーチする(P32～P37) Lesson5 イベントなどを説明する(P38～P43)		【知識・技能】 ①主張する、仮定するときや基本情報を伝える、詳細を伝えるときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②相手の知識を用いて、助言する、行動を促すときの表現を適切に運用し、相手に対するアドバイスを表現する技能を身に付けている。 ③相手の知識を用いて、主張する、仮定するときの表現を適切に運用し、自分の考えや仮定・推測などを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、個人的なことに書いたり、気持ちを伝えたりして、自分の近況について相手に共感してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。 ②相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、助言したり、行動を促したりして、相手にアドバイスの有効性を納得してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。		3	5・6	
④	Lesson6 理想の場所や時間を描写する(P44～P49) Lesson7 日本の観光をプレゼンテーションする(P50～P55)		【知識・技能】 ①見た目を描写する、イメージを伝えるときや特長を説明する、説得するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②相手の知識を用いて、見た目を描写する、イメージを伝えるときや特長を説明するときの表現を適切に運用し、理想の場所や時間について詳しく表現する技能を身に付けている。 ③相手の知識を用いて、特長を説明する、説得するときの表現を適切に運用し、日本の観光地について詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、見た目を描写したり、イメージを伝えたりして、理想の場所や時間についての詳細やそれに対する自分の気持ちを、相手に理解してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。 ②相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、特長を説明したり、説得したりして、相手にぜひ知ってほしい、理解してほしいことについて詳しく表現することができる。		4	7・8	○
⑤	Lesson8 趣味について書く(P56～P61) Lesson9 物事を分析して評論する(P62～P67)		【知識・技能】 ①できごとについて物語る、読み手をひきつけるときや分析する、評論するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②相手の知識を用いて、できごとについて物語る、読み手をひきつけるときの表現を適切に運用し、自分の趣味について詳しく表現する技能を身に付けている。 ③相手の知識を用いて、分析する、評論するときの表現を適切に運用し、物事に対する自分なりの分析や評論を詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、できごとについて物語ったり、読み手をひきつけたりして、自分の趣味について相手に理解してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。 ②相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、分析したり、評論したりして、物事に対する自分なりの分析や評論について相手に同意してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。		5	9・10	○
⑥	Lesson10 学習環境についてディベートする(P68～P79)		【知識・技能】 ①議論する、反駁する、意見をまとめて再主張するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②相手の知識を用いて、議論する、反駁する、意見をまとめて再主張するときの表現を適切に運用し、ディベートにおいて自分の考えや主張などを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①相手の主張や反駁を理解し、ある話題について、適切な表現を用いて、立論したり、反駁したり、意見をまとめて再主張したりして、ディベートにおいて建設的な議論ができるよう、詳しく表現することができる。		6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクリーニング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目			単位数	報告課題回数	定期試験回数
家庭			家庭基礎			2	6	2
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
4	2	0	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			書 名					
教科書	東京書籍	家基701	家庭基礎 自立・共生・創造					
副教材等	－	－	－					
学習目標								
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実質的な態度を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験					学年末試験			
第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる					第6章 食生活をつくる 第7章 衣生活をつくる 第8章 住生活をつくる			
【添削指導（報告課題）】								
	学習範囲		単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる		【知識・技能】 ①人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、課題を解決する力を身に付けることができる。			1	1・2	○
②	第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる		【知識・技能】 ①乳幼児期と高齢期の心身の特徴について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだすことができる。			2	3・4	○
③	第5章 共に生き、共に支える 第6章 食生活をつくる		【知識・技能】 ①生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解することができる。 ②おいしさの構成要素について理解し、健康や環境に配慮した食生活について理解することができる。			3	5・6	
④	第6章 食生活をつくる 第7章 衣生活をつくる		【知識・技能】 ①健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理することができる。 【思考・判断・表現】 ①健康や環境に配慮した食生活について問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。			4	7・8	○
⑤	第8章 住生活をつくる		【知識・技能】 ①ライフステージに応じた住生活の特徴について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①住居の機能性や快適性について問題を見い出して課題を設定することができる。			5	9・10	○
⑥	第9章 経済生活を営む 第10章 生活を設計する		【知識・技能】 ①消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見い出して課題を設定できる。			6	11・12	
学 習 方 法								
【添削指導（報告課題）】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴（チェックテストを含む）」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導（スクーリング）】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								
評 価 方 法								
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。								

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目			単位数	報告課題回数	定期試験回数
家庭			家庭総合			4	12	2
面接指導								
規定回数(1)		メディアによる減回回数		(1)-(2)-(3)				
		Web(2)	放送視聴(3)					
8		4		0		4		
※規定教科書は、発行者の番号・題名・教科書の記号・巻号を記載 発行者の番号・題名 教科書の記号・巻号						書 名		
教科書		東京書籍		家総701		家庭総合 自立・共生・創造		
副教材等		—		—		—		
学習目標								
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力で主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 (1)人々の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けていく。【知識・技能】 (2)家庭や地域及び社会における生活環境を認識し、課題を認識し、解決方法を模索し、実践を計画・実践し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けていく。【思考・判断・表現】 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭・地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験						学年末試験		
第1章 生涯を見通す(p.12～17) 第2章 人生をつくる(p.20～41) 第3章 子どもと共に育つ(p.44～73)						第6章 食生活をつくる(p.104～157) 第7章 衣生活をつくる(p.160～199)		
【添削指導（報告課題）】								
学習範囲		単元目標				報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1章 生涯を見通す(p.12～17)	【知識・技能】 ①人生のそれぞれの発達段階における課題や、現代の家族の特徴や機能について理解している。 【思考・判断・表現】 ①生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理の仕方を理解し、情報を適切に取捨選択している。 ②どのような暮らしにたいか、どんな人生を送りたいか自分らしい生き方を想像するとともに、将来の家庭生活及び職業生活について考えることができる。				1	1・2	○
②	第2章 人生をつくる(p.20～41)	【知識・技能】 ①生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解している。 【思考・判断・表現】 ①家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解するとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化などについて考察することができる。 ②どうすれば家族や地域、社会と協力・協働し、豊かな家庭生活や地域社会を創造していくことができるかを考えることができる。				2	3・4	○
③	第3章 子どもと共に育つ(p.44～73)	【知識・技能】 ①乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、戦後の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じ適切に関与するための技能を学習している。 【思考・判断・表現】 ①子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について考察し、理解を深めている。 ②児童虐待などの子どもに対する不可逆的なけがに陥らないように、社会全体で乳幼児をまもつ親を支援していくことの重要性について考えることができる。				3	5・6	○
④	第4章 超高齢社会と共に生きる(p.76～91)	【知識・技能】 ①高齢者の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じ適切に関与するための生活支援に関する技能を学習している。 ②高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について考察し、理解を深めている。 ③超高齢社会の現状と課題を学び、どのような高齢社会を築いていくかを考えることができる。				4	7・8	
⑤	第5章 共に生き、共に支える(p.94～99)	【知識・技能】 ①生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 【思考・判断・表現】 ①家族と地域の関わりについて理解するとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々と共に生活し合って生きていることの意義について考察し、理解を深めている。 ②社会と共生して生きる社会を実現するために、個人や集団がどうあり、助け合ったらよいのかについて、人々とのネットワークや社会的制度、さらには支えを支える社会環境の変化などに関連させて考察する。				5	9・10	
⑥	第6章 食生活をつくる(p.104～125)	【知識・技能】 ①よりよい食環境を身に付け、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化を学習していく。 【思考・判断・表現】 ①食生活と健康や食の文化が滅ぶのか考え、自分が食っている食料の製造・加工、調理する場合には技術や知識を生かし、短時間で作れ、手間のかけらない献立を提案することができている。 ②自分や家族の健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理法について科学的な理解を深めることができる。				6	11・12	
⑦	第6章 食生活をつくる(p.126～157)	【知識・技能】 ①ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己と家族の食生活の計画・管理を学習する。 【思考・判断・表現】 ①食品の生産や流通・販売の多様化、輸入食品の増大、食料自給率の低下、外食や中食への依存などにより、食生活を取り巻く環境が変化する中で食生活の課題や、食料の調達・加工・調理、調理する場合には技術や知識を生かし、短時間で作れ、手間のかけない献立を提案することができている。 ②食生活の自立に必要な知識と知識と技能を身に付けるために、調理や加工によりおいしさや変化することを科学的に捉えることができる。 ③配膳や食卓のレイアウトに関心を持つことができる。				7	13・14	○
⑧	第7章 衣生活をつくる(p.160～179)	【知識・技能】 ①私生活や娯楽に活用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解している。 ②繊維(天然繊維、化学繊維)、糸、布の代表的な種類とそれらの特徴、性質について、実験や実験データ、デジタル教材等を活用するなどして理解し、適切な被服材料の選択と取扱いができる。 【思考・判断・表現】 ①被服の洗濯や保管方法を科学的に理解し、環境に配慮した衣生活について考察、実践しようとしている。				8	15・16	○
⑨	第7章 衣生活をつくる(p.180～199)	【知識・技能】 ①被服の機能、素材と管理の知識を応用しながら、目的に合った被服を制作するために、被服が身体に合う形に合わせたように構成されているか、理解している。 【思考・判断・表現】 ①現代に受け継がれる日本の文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の文化に込められた知恵や技術について知り、日本の伝統文化としての和服や世界の民族衣装など、着物と人との関わりについて考察し、理解を深めている。 ②文化財に引き継がれる衣生活の伝統を尊重するために、資源の消費の削減や衣生活の充実などとともに、全ての人が健康、安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について考察し、理解を深めている。				9	17・18	○
⑩	第8章 住生活をつくる(p.202～225)	【知識・技能】 ①住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて学ぶ。 ②ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防犯などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を学ぶ。 ③住居の機能、住空間の計画、住環境などについて科学的に理解し、住生活の文化に関心をもちるとともに、必要な知識と技能を習得して、安全と環境に配慮し、主体的に住生活を楽しむことができる。				10	19・20	
⑪	第9章 経済生活をつくる(p.230～251)	【知識・技能】 ①家計の構造について理解するとともに生活における経済と社会との関わりについて学んでいる。 ②生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方などについて理解を深め、情報の収集・整理することができる。 ③金銭的・時間的・精神的な資源が有限である中で、契約の重要性について理解を深め、自立した消費者として責任ある消費行動を取ろうとしている。 ④生涯を通じた経済生活を営めるように、経済的自立の重要性を生徒を見通した観点から学びについて考察し、理解を深めている。				11	21・22	
⑫	第10章 持続可能な生活を営む(p.252～259) 第11章 これからの生活を創造する(p.262～267)	【知識・技能】 ①生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について学んでいる。 【思考・判断・表現】 ①持続可能な社会を目指して主体的に行動できよう、安全で安心な生活と消費及び生活文化について考察し、ライフスタイルを次世代に引き継ぐ衣生活の伝統を尊重するために、資源の消費の削減や衣生活の充実などとともに、全ての人が健康、安全・快適な衣生活を営むことができる。				12	23・24	
学 習 方 法								
【添削指導（報告課題）】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「課題視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導（スクーリング）】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けた後、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								
評 価 方 法								

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
情報			情報Ⅰ		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
4	2	0	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名			
教科書	東京書籍	情Ⅰ701	新編情報Ⅰ				
副教材等	－	－	－				
学習目標							
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めている。【知識・技能】 (2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用している。【思考・判断・表現】 (3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
第1章 情報で問題を解決する 第2章 情報を伝える				第4章 データを活用する 第5章 活動して提案する			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲		単元目標	報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	第1章 情報で問題を解決する		【知識・技能】 ①知的財産や個人情報の取り扱いを理解し、情報モラルに対する意識が向上している。 【思考・判断・表現】 ①問題解決を行うに際して、プロセスを意識し、情報技術を活用してより良く解決することができる。	1	1・2	○	
②	第2章 情報を伝える		【知識・技能】 ①インターネット上でのコミュニケーションの特徴を理解し、適切な情報発信や受け取った情報の信頼性を適切に判断することができる。 【思考・判断・表現】 ①UDなど、情報デザインの活用に触れ、効果的なコミュニケーションの活用方法を習得している。	2	3・4	○	
③	第3章 コンピュータを活用する		【知識・技能】 ①アルゴリズムを理解し、問題解決のためのプログラミングの基礎的な技能を習得している。 【思考・判断・表現】 ①コンピュータの構成と処理の仕組みや論理回路を理解し、コンピュータに対して科学的な視点を持って対応することができる。	3	5・6		
④	第4章 データを活用する		【知識・技能】 ①情報セキュリティの基礎的な知識を習得するとともに、サイバー犯罪などの社会問題について理解している。 【思考・判断・表現】 ①インターネットの構成、データ伝送の仕組み、サーバの働きを理解し、ネットワークに対して科学的な視点で考えることができる。	4	7・8		○
⑤	第5章 活動して提案する		【知識・技能】 ①各種ソフトウェアの基本的な活用ができている(表計算ソフト・Scratch・Pythonなど)。 【思考・判断・表現】 ①職業観を養い、勤労を重んずる態度を身に付けることができる。	5	9・10		○
⑥	<巻末> 各種ソフトウェアの操作 文字・色彩の基礎知識 プログラミングの基礎		【知識・技能】 ①情報に関する幅広い知識を習得している。 【思考・判断・表現】 ①情報技術を活用して、科学的な思考に基づいた表現ができる。	6	11・12		
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
情 報			情 報 II		2	6	2
面 接 指 導							
規定回数(1)	メディアによる閲覧回数 Web(2)	放送視聴(3)	(1)-(2)-(3)				
4	2	0	2				
※規定教科書は、発行者の番号・題称・教科書の記号・番号を記載			書 名				
教科書	東京書籍	情 II 701	情 報 II				
副教材等	-	-	-				
学 習 目 標							
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めることができる。【知識・技能】 (2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。							
定 期 試 験 範 囲							
一学期末試験				学年末試験			
P.1～P.52 実習編 1章 情報社会 2章 コンテンツ 3章 データサイエンス 4章 情報システム				P.76～P.131 論理編 3章 データサイエンス 4章 情報システム 活用編			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期・後期
①	P.1～P.29 実習編 1章 情報社会 2章 コンテンツ	【知識・技能】 ①情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展や情報技術の発展によるコミュニケーションの多様化・人への知的活動への影響について理解している。 ②多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。 【思考・判断・表現】 ①情報技術の発展や情報社会の進展を踏まえ、将来の情報技術と情報社会の在り方について考察することができる。 ②コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツの創造と活用の意義について考察することができる。 ③人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察することができる。 ④情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。			1	1・2	○
②	P.30～P.52 実習編 3章 データサイエンス 4章 情報システム	【知識・技能】 ①多様かつ大量のデータの存在やデータ活用の有用性、データサイエンスが社会に果たす役割について理解し、目的に応じた適切なデータの収集や整理・整形について理解し技能を身に付けている。 ②データに基づく現象のモデル化やデータの処理を行い解釈・表現する方法およびデータ処理の結果を基にモデルを評価することについて理解し技能を身に付けている。 ③情報システムにおける情報の流れや処理の仕組み、情報セキュリティを確保する方法や技術やソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解している。 ④情報システムを構成するプログラムを制作する方法について理解し技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。 ②将来の現象を予測したり、複数の現象間の関連を明らかにしたりするために、適切なモデル化や処理、解釈・表現を行うことができる。 ③情報システム及びそれによって提供されるサービスについて、その在り方や社会に果たす役割と及ぼす影響について考察することができる。 ④情報システムの効率や運用の利便性などに配慮した設計、構成するプログラムの制作と、その過程を評価し、改善することができる。			2	3・4	○
③	P.53～P.75 論理編 1章 情報社会 2章 コンテンツ	【知識・技能】 ①情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展や情報技術の発展によるコミュニケーションの多様化・人への知的活動への影響について理解している。 ②多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。 ③コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ①情報技術の発展や情報社会の進展を踏まえ、将来の情報技術と情報社会の在り方について考察することができる。 ②コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツの創造と活用の意義について考察することができる。 ③人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察することができる。 ④情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。			3	5・6	
④	P.76～P.106 論理編 3章 データサイエンス 4章 情報システム	【知識・技能】 ①情報システムとそれを実現している情報の流れを理解することができる。 ②情報システムの活用と社会への影響を理解することができる。 ③情報システムにおける情報の流れや処理の仕組み、情報セキュリティを確保する方法や技術やソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。 ②将来の現象を予測したり、複数の現象間の関連を明らかにしたりするために、適切なモデル化や処理、解釈・表現を行うことができる。 ③情報システム及びそれによって提供されるサービスについて、その在り方や社会に果たす役割と及ぼす影響について考察することができる。 ④情報システムの効率や運用の利便性などに配慮した設計、構成するプログラムの制作と、その過程を評価し、改善することができる。			4	7・8	○
⑤	P.107～P.131 活用編	【知識・技能】 ①多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。 ②コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。 ②情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。			5	9・10	○
⑥	P.132～P.151 資料編	【知識・技能】 ①多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。 ②コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解している。 ③情報システムにおける情報の流れや処理の仕組み、情報セキュリティを確保する方法や技術やソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。 ②情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。 ③情報システムの効率や運用の利便性などに配慮した設計、構成するプログラムの制作と、その過程を評価し、改善することができる。			6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】							
1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクリーニング)】							
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】							
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間		総合学習Ⅰ～Ⅲ・総合学習		1	1	－
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数					
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	－	－	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名			
教科書	第一学習社		現代を知るplus			
副教材等						
学習目標						
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	医療・看護	・「患者主体の医療」を実現するために重視されている考え方について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・脳死と臓器移植について、日本の現状について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・生活習慣病が増加した背景とその対策について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「チーム医療」について、実現が求められている背景と、実現のために取り入れられている対策について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・患者のQOL(生活の質)を向上させる方法として考えられる事例を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「平均寿命と健康寿命の推移(男女別)」(教科書p.81)について、適切にグラフを読み取り、健康寿命を延ばすための対策について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「健康格差」とは何か、その現状について自分なりに調べ、社会全体として求められる取り組みについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・科学技術の進展により可能になった医療技術を1つ挙げ、その医療技術を活用することでもたらされる影響と問題点を自分なりに調査してまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、健康長寿社会の実現及び医療技術の進歩に伴う安全面や倫理面に関する諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1			
②						
学 習 方 法						
【添削指導(報告課題)】 1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
評 価 方 法						

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間		総合学習Ⅰ～Ⅲ・総合学習		1	1	－	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数						(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	－	－	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名				
教科書	第一学習社		現代を知るplus				
副教材等							
学習目標							
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標	報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期		
①	科学技術	・化石燃料に代わる代替エネルギーについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・ES細胞とiPS細胞の共通点／異なる点について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・人工知能の発達によって起こると考えられる問題について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・原子力発電の利点と欠点について自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・再生可能エネルギーの現状と課題、普及のための方策について、自分なりに調べて考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・バイオテクノロジーの発達により今後期待されていることについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・ロボットを人間社会のなかで活用している具体的な事例を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「人工知能(AI)が果たす役割・機能として期待すること」(教科書p.73)について、適切にグラフを読み取り、人工知能の導入が人間の仕事にどのような影響を与えるか、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、再生可能エネルギーの導入及び技術の進歩がもたらす倫理的課題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1				
②							
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
評 価 方 法							

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間			総合学習Ⅰ～Ⅲ・総合学習		1	1	－	
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数							(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	－	－	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			発行者の番号・略称 または出版社名		教科書の記号・番号			
教科書	第一学習社		書 名					
副教材等			現代を知るplus					
学習目標								
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	環境	・SDGs(持続可能な開発目標)とは何か、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・プラスチックごみ削減のために、世界と日本それぞれで進められている対策について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・地球温暖化の原因と、地球温暖化が気候や人々の生活にどのような影響をもたらすかについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・パリ協定とは何か、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・循環型社会を実現させるための身近な取り組みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・地球規模で取り組む必要のある環境問題について1つテーマを絞り、自分なりに調査・分析して、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・地球温暖化を防ぐための具体的な対策と、その対策を実現させるために必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「主要国の発電電力量に占める再生可能エネルギー比率の比較」(p.17)について、適切にグラフを読み取り、日本で再生可能エネルギー導入を進めるための方法について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、持続可能な環境づくりに貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】			1			
②								
学習方法								
【添削指導(報告課題)】 1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
評価方法								

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間			総合学習Ⅰ～Ⅲ・総合学習		1	1	—	
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数							(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	—	—	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	教育	・「アクティブ・ラーニング」や「キャリア教育」の導入など、時代の変化に合わせて行われてきた教育の試みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「新学習指導要領の導入」「大学入試改革」「英語教育改革」など、現在進められている教育改革について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・教育現場が抱える課題に対して現在行われている取り組みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・新型コロナウイルス感染拡大でより深刻化している「教育格差」について、現状とその是正に向けて考えられる対策を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「不読者の推移」(p.39)について、適切にグラフを読み取り、高校生の読書離れを解決するための方策について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・国際学習到達度調査(PISA)の結果をふまえて、日本の生徒の課題を自分なりに調査・分析し、学力向上のために必要な取り組みについてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・いじめ・不登校や教員の長時間労働問題など、教育現場が抱えている課題を1つ挙げ、グラフなどを用いて自分なりに調査・分析し、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の教育現場が抱える諸問題の解決に向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】			1			
②								
学習方法								
【添削指導(報告課題)】 1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
評価方法								

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間		総合学習Ⅰ～Ⅲ・総合学習		1	1	－	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数						(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	－	－	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名				
教科書	第一学習社		現代を知るplus				
副教材等							
学習目標							
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標	報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期		
①	国際問題・異文化理解	・「文化相対主義」とはどのような考え方が、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・外国人が日本で生活するうえで直面している問題について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・現代の国際社会が抱えている問題について、正しい知識を身に付ける。【知識・技能】 ・異文化理解が求められている背景と、異文化理解を促進させるために必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「産業別外国人労働者数の推移」(p.25)について、適切にグラフを読み取り、外国人労働者の受け入れに必要な対応について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・新型コロナウイルス感染拡大がグローバル化に与えた影響について、自分なりに調べてまとめる。【思考・判断・表現】 ・国際協力として、様々な立場(政府、非政府組織、市民など)からできることを、自分なりに調べてまとめる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、多文化共生社会の形成に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1				
②							
学習方法							
【添削指導(報告課題)】 1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
評価方法							
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。							

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間			総合学習Ⅰ～Ⅲ・総合学習		1	1	－	
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数							(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	－	－	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			書 名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	情報・メディア	・「IoT」と「ビッグデータ」について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・個人の情報発信が社会に影響を与えた事例について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・情報社会の進展によりもたらされた利点について、具体的な事例とともに正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「高校生のネット利用の現状－スマートフォン利用開始により減った時間(複数回答)」(教科書p.65)について、適切にグラフを読み取り、高校生のスマートフォンとの付き合い方について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・情報格差(デジタル・デバイド)について、現状とその是正に向けて考えられる対策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・SNSの特徴、SNSの利用によるメリット／デメリットについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・インターネットの普及がもたらした問題点について、具体的な事例を調べ、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、今後の情報社会の発展へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】			1			
②								
学 習 方 法								
【添削指導(報告課題)】 1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。								
【面接指導(スクリーニング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
評 価 方 法								

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間		総合学習Ⅰ～Ⅲ・総合学習		1	1	—	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数						(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	—	—	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名				
教科書	第一学習社		現代を知るplus				
副教材等							
学習目標							
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標	報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期		
①	政治・経済	・国民の「政治離れ」が起きた背景について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・司法制度改革が行われるようになった背景と、具体的な改革内容について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・自由貿易を進めることの利点と問題点について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・働き方改革によって、どのように労働環境が改善されているか、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「衆議院議員総選挙における年代別投票率(抽出)の推移」(教科書p.55)について、適切にグラフを読み取り、若者の投票率を上げるための方法について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・地方選挙で起こっている問題について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・憲法改正について、賛成／反対両方の立場の文献を調査し、それに対する自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・新型コロナウイルス感染拡大により、日本経済にどのような影響が生じたか、また感染症対策と経済の再生とのバランスをどう取っていったらよいか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・非正規雇用労働者が抱える問題点とその解決策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の日本社会が抱える政治・経済に関する諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1				
②							
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】 1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
評 価 方 法							

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間			総合学習Ⅰ～Ⅲ・総合学習		1	1	－	
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数							(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	－	－	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名			
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	生活・社会	・「少子化」の要因、社会に与える影響、日本での取り組みについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・日本で起きている様々な格差(経済格差、世代間格差、教育格差、情報格差)と、それぞれの格差が生じた原因について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・日本の自然災害と、「減災」のために必要な取り組みについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・食料自給率の低下や食品ロス、ゲノム編集食品の実用化など、食をめぐる問題について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「日本の総人口および人口構造の推移と見通し」について、適切にグラフを読み取り、人口減少社会に対応するために必要なことについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・ダイバーシティの注目など、多様性を認め合う社会の実現に必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・新型コロナウイルス感染拡大により、日本社会の格差がどのように変化したか、またその是正に向けて考えられる対策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・社会不安を増大させてきた事例についてテーマを1つに絞り、自分なりに調査・分析して、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・日本人の食のスタイルの変化がもたらした問題点を1つ考え、その対策を自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の日本社会が抱える生活・社会分野の諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】			1			
②								
学習方法								
【添削指導(報告課題)】 1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
評価方法								

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間			総合学習Ⅰ～Ⅲ・総合学習		1	1	－	
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数							(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	－	－	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			発行者の番号・略称 または出版社名		教科書の記号・番号			
教科書	第一学習社		書 名					
副教材等			現代を知るplus					
学習目標								
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題 回数	Web授業 回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	日本語・日本人	・日本語の乱れや変化として取り上げられている事例について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・世界から注目されている日本文化の特徴について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「タテ社会」「恥の文化」「集団主義」など、日本社会の特徴とされている事柄について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「とてもすばらしいという意味で『やばい』とすることがある」(p.33)について、適切にグラフを読み取り、言葉の変化について肯定的意見と否定的意見の両方をふまえつつ、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・新型コロナウイルス感染拡大が文化活動に与えた影響とその対応について、海外と日本の違いを自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・海外や外国人から日本社会や日本人はどう見られているかを自分なりに調べ、それに対する自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、未来の日本文化の形成に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】			1			
②								
学習方法								
【添削指導(報告課題)】 1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
評価方法								

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2025年度 】 年間指導計画①

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間			総合学習Ⅰ～Ⅲ・総合学習		1	1	－	
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数							(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	－	－	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			書 名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】 (3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	福祉	・ノーマライゼーションの考え方について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・日本の年金制度の仕組み、問題点について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・介護保険制度がスタートした背景について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・共生社会を実現するために、どのような考え方を生かして社会の制度や環境を整備していったらよいか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・社会にとって「ユニバーサルデザイン」が持つ意義について、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・日本の医療保険制度を維持するためにどのような対策が考えられるか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「要介護者等との統括別主な介護者の構成割合(2019年)」(p.47)について、適切にグラフを読み取り、介護をめぐる問題を解決するために必要なことについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、共生社会の実現に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】			1			
②								
学習方法								
【添削指導(報告課題)】 1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
評価方法								

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。